

県立高等学校教育改革の
これまでの取組等

令和5年5月29日

青森県教育委員会

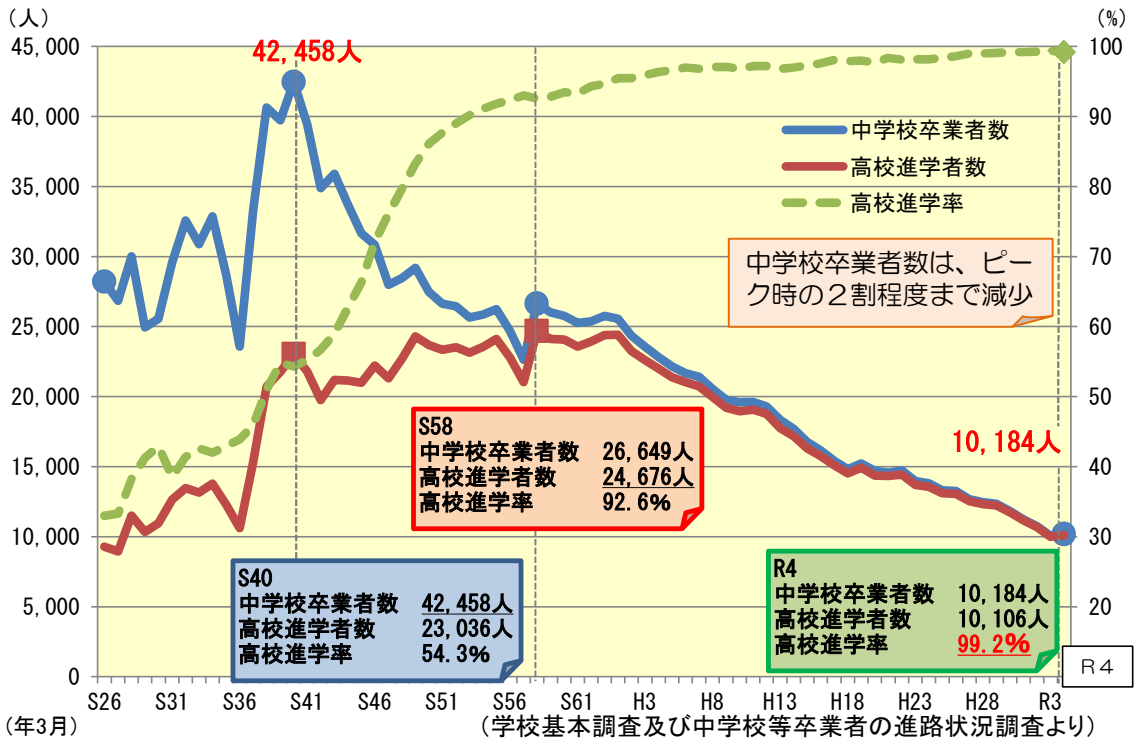
目 次

1	青森県の中学校卒業生数と高校進学率の推移.....	1
2	高校卒業生の進路状況.....	1
3	これまでの高等学校教育改革の取組.....	2
	(1) 県立高等学校教育改革実施計画の変遷	2
	(2) 平成12年度以降に新設された学科等の設置目的及び設置校	3
	(3) 中学校卒業生数の減少に対応した学校配置等	6
4	高等学校における重点的な取組.....	12
5	教育活動の充実に向けた主な取組.....	20
	(1) スクール・ミッション等	20
	(2) 「あおもり創造学」の推進	20
	(3) 地域校の活性化	20
	(4) コンソーシアム（共同事業体）の構築	21
	(5) 全国からの生徒募集	22
	(6) ドリカム人づくり推進事業	22
	(7) スーパーサイエンスハイスクール（文部科学省事業）	23
	(8) スーパーグローバルハイスクール（文部科学省事業）	24
6	今後の本県における中学校卒業生数及び人口の見込み.....	25
	(1) 中学校卒業（見込）生数の推移	25
	(2) 青森県の将来推計人口（15～19歳人口）	25
7	高校教育改革の検証	26

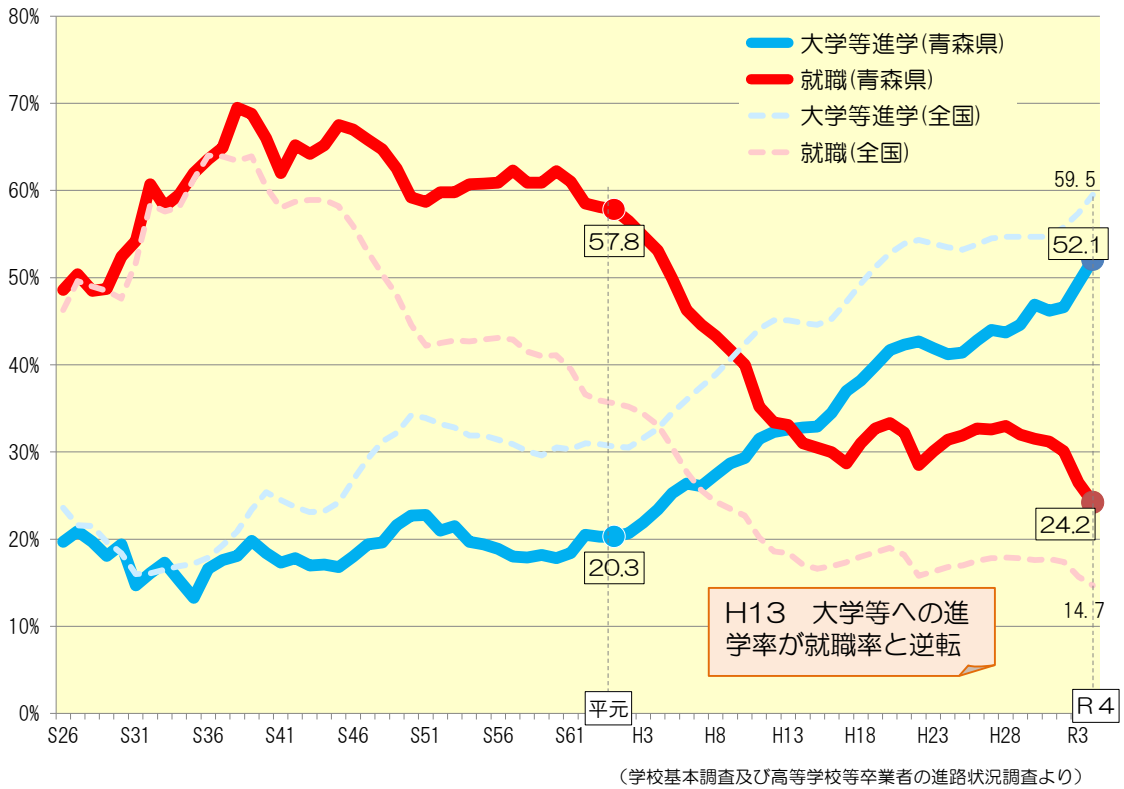
参考資料

1	青森県立高等学校の概要.....	30
2	令和5年度県立高等学校等募集人員.....	32
3	第1次進路志望状況調査及び入学者数.....	34
4	高等学校の募集定員と1年在籍生徒数との乖離の状況.....	38
5	高校卒業後の進路状況.....	38
	(1) 県全体	38
	(2) 普通科等	39
	(3) 農業科	39
	(4) 工業科	40
	(5) 商業科	40
	(6) 水産科	41
	(7) 家庭科	41
	(8) 看護科	42
	(9) 総合学科	42
6	学びを支える制度等.....	43

1 青森県の中学校卒業生数と高校進学率の推移



2 高校卒業生の進路状況



3 これまでの高等学校教育改革の取組

(1) 県立高等学校教育改革実施計画の変遷

平成9～10年度 青森県高等学校教育改革推進検討会議

平成11年2月「21世紀を展望した本県高等学校教育の在り方について」
《多様化への対応、中高一貫教育の導入等 報告》

第1次実施計画(平成12～16年度)

第2次実施計画(平成17～20年度)

平成18～19年度 高等学校グランドデザイン会議

平成19年10月「今後の県立高等学校の在り方について」
《統合を含めた学校配置の見直しの必要性等 答申》

第3次実施計画【前期】(平成21～25年度)

第3次実施計画【後期】(平成26～29年度)

平成26～27年度 青森県立高等学校将来構想検討会議

平成28年1月「青森県立高等学校将来構想について」
《学校・学科の在り方、学校規模・配置の方向性等 答申》

基本方針(平成30年度～おおむね10年間)

第1期実施計画(平成30～令和4年度)

第2期実施計画(令和5～9年度)

《第2期実施計画策定・推進の考え方》

- ① 充実した教育環境の整備
- ② 各地域の実情への配慮
- ③ 魅力ある高校づくりの更なる推進

(2)平成12年度以降に新設された学科等の設置目的及び設置校

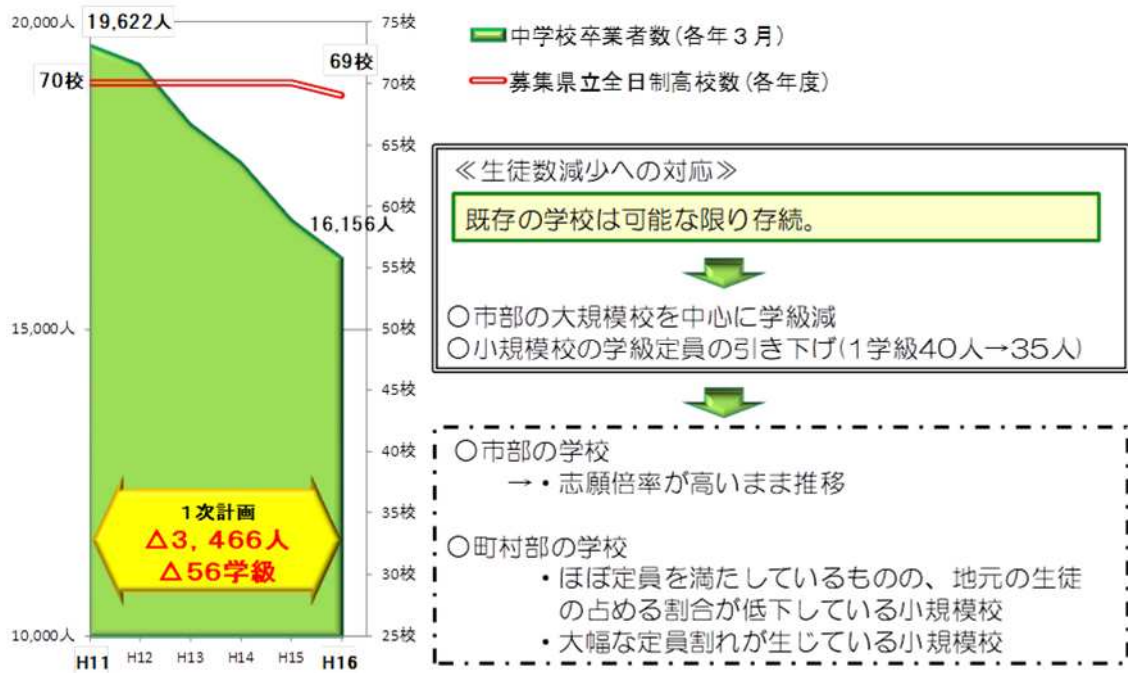
設置目的等		設置校
普通科系の専門学科		
スポーツ科学科	体育・スポーツに関する教科・科目の学習に重点を置き、体育・スポーツの振興に寄与できる人財を育成	青森北高校（H12～） 弘前実業高校（H13～） 八戸西高校（H13～）
表現科	表現に関する専門的な学習を通して積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養いながら、豊かな情操と創造性を育成	八戸東高校（H15～）
グローバル探究科	探究活動や協働的学びに重点を置き、社会の更なるグローバル化等に対応できる国際的素養を身に付けたグローバル人財を育成	青森南高校（R6～（予定））
農業科		
食品科学科	食品の製造・分析及び流通・情報に関する科学的知識と技術を習得させ、食品にかかわる業務に必要な能力と態度を育成	柏木農業高校（H11～） 五所川原農林高校（H22～） 三本木農業恵拓高校（R3～）
動物科学科	従来の畜産教育の領域を拡大し、牛・豚・鶏等の産業動物の他に、馬や愛玩動物等の社会動物の領域を新たに加え、専門的な学習を推進	三本木農業高校（H12～R4） 三本木農業恵拓高校（R3～）
生物生産科	農業生産に関する知識・技術とともに、環境保全型農業や植物バイオテクノロジー等について学習	五所川原農林高校（H18～） 名久井農業高校（H18～） 柏木農業高校（H20～）
園芸科学科	果樹・草花等の生産、園芸福祉について学習	名久井農業高校（H18～R3）
植物科学科	作物生産や植物バイオテクノロジー、施設園芸等について学習	三本木農業高校（H18～R4） 三本木農業恵拓高校（R3～）
環境工学科	農業機械や造園、環境保全型農業などに関して学習	柏木農業高校（H20～） 三本木農業恵拓高校（R3～）
森林科学科	森林の育成とともに、森林環境保全や林産資源活用についても学習	五所川原農林高校（H22～）
環境土木科	農業土木とともに、地域環境の保全等についても学習	五所川原農林高校（H22～） 三本木農業高校（H22～R4）

環境システム科	農業科の中で、工業の科目や経営に必要な科目を学習	名久井農業高校（H25～）
環境科学科	森林の構造・機能・育成、農業土木、環境保全などに関して学習	五所川原農林高校（第2期実施計画期間に設置）
工業科		
都市環境科	土木に関する教育内容に加え、環境保全技術など環境やエネルギーについても学習	青森工業高校（H23～）
機械・エネルギー科	機械に関する教育内容に加え、電気自動車や燃料電池、太陽光など環境やエネルギーについても学習	十和田工業高校（H23～）
設備・エネルギー科	設備に関する教育内容に加え、地熱や太陽光などを利用した設備のしくみなど、環境やエネルギーについても学習	むつ工業高校（H23～）
土木建築科	土木に関する教育内容を学習する土木コースと建築に関する教育内容を学習する建築コースを設置	八戸工業高校（H25～R4：R3～土木科と建築科へ学科改編）
電気・エネルギー科	発電や送電、電気配線工事に加え、エネルギー等についても学習	下北地区統合校（R9～）
総合学科		
<p>普通教育を主とする学科である「普通科」、専門教育を主とする学科である「専門学科」に並ぶ学科として制度化。生徒の主体的な選択による学習を通して、将来の生き方や進路に関する自覚を深め、職業観を育成</p>		<p>七戸高校（H8～） 尾上総合高校（H11～H24：H25 定時制に転換） 大湊高校（H14～） 青森中央高校（H15～） 木造高校（H15～） 木造高校深浦校舎（H17～R4）</p>

全日制普通科単位制		
	全日制普通科において学年による教育課程の区分を設けず、決められた単位を修得すれば、卒業が認められる制度。生徒の選択による主体的な学習を通して、大学進学等の進路希望の達成を図る	青森東高校（H16～） 八戸北高校（H18～） 弘前南高校（H20～） 田名部高校（R1～）
総合選択制		
	在籍する学科内の科目選択にとどまらず、生徒の興味・関心や進路選択に応じて、他の学科の科目を選択	弘前実業高校（H14～）
中高一貫教育		
連携型	設置者の異なる中学校と高等学校が連携し、6年間にわたり計画的・継続的な教育活動を行う	田子高校（H13～R3） 大湊高校（H14～H25）
併設型	同一の設置者による中学校と高等学校を接続し、6年間の計画的かつ継続的な一貫した教育指導を行う	三本木高校（H19～）
定時制三部制		
	午前、午後、夜間等の時間帯で授業を行い、仕事の時間や学習スタイルに合わせて、他の部の授業を受けることなどにより、3年での卒業も可能となる	北斗高校（H18～） 八戸中央高校（H18～） 尾上総合高校（H25～）
通信制の再編		
	望ましい指導体制に向け、八戸中央高校及び尾上総合高校に設置していた北斗高校通信制課程の分室をそれぞれ当該校の通信制課程に再編	北斗高校（H11～） 八戸中央高校（H25～） 尾上総合高校（H25～）
くくり募集		
	柔軟な学科選択に対応するため、学校の実情に応じて、複数の学科を一括して募集 1年次は共通科目を学習し、2年次以降、各学科に分かれて学習	<商業科と情報処理科> 青森商業高校（H22～） 黒石商業高校（H22～R3） 三沢商業高校（H22～） <普通科と理数科> 五所川原高校（H26～）

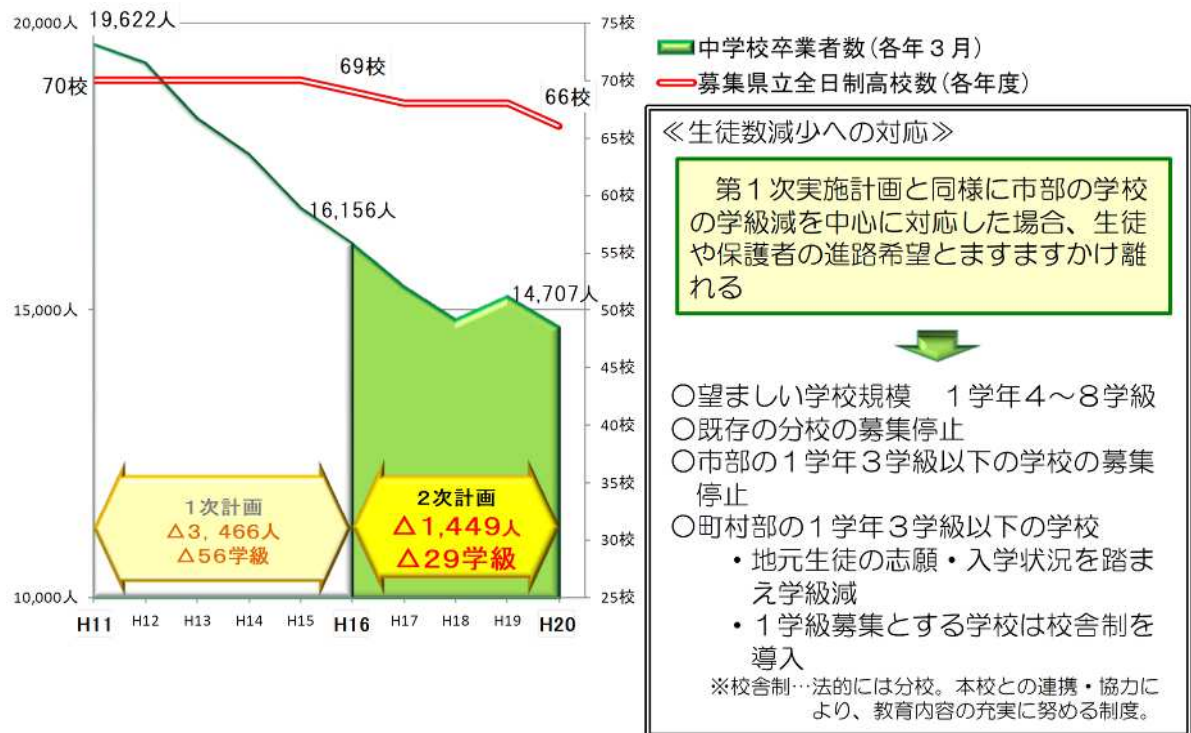
(3) 中学校卒業生数の減少に対応した学校配置等

①第1次実施計画 (H12~H16)



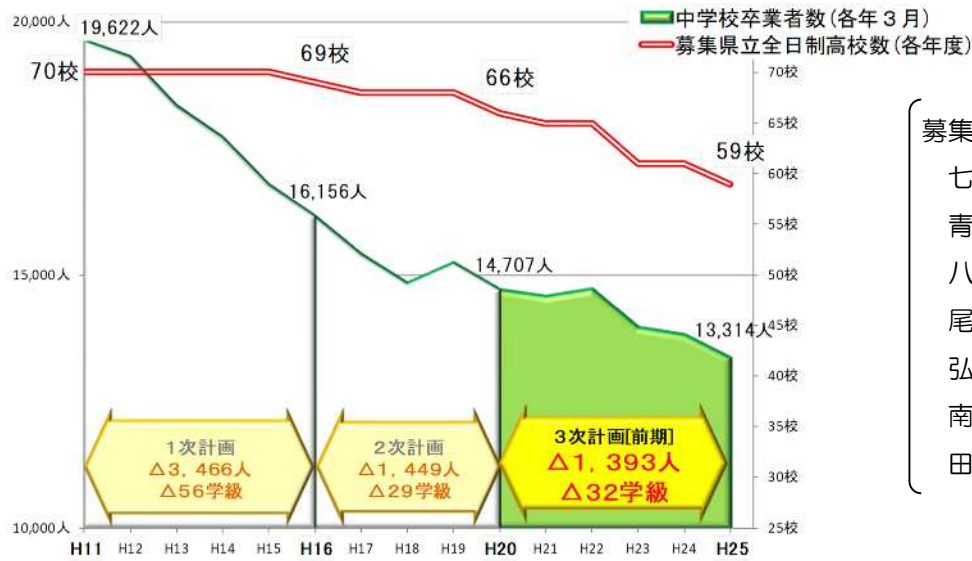
[募集停止：木造高校車力分校]

②第2次実施計画 (H17~H20)



[募集停止：野辺地高校横浜分校、木造高校稲垣分校、五所川原高校東校舎]

③第3次実施計画【前期】(H21~H25)



募集停止：

- 七戸高校八甲田校舎、
- 青森戸山高校、
- 八戸南高校、
- 尾上総合高校、
- 弘前南高校大鰐校舎、
- 南部工業高校、
- 田名部高校大畑校舎

《生徒数減少への対応》

- ・活力ある教育活動を維持するためには一定規模以上の学校であることが望ましいというこれまでの方向性を踏襲。
- ・地域の様々な実情等を考慮した上で、統合を含めた適正な学校規模配置を進める。



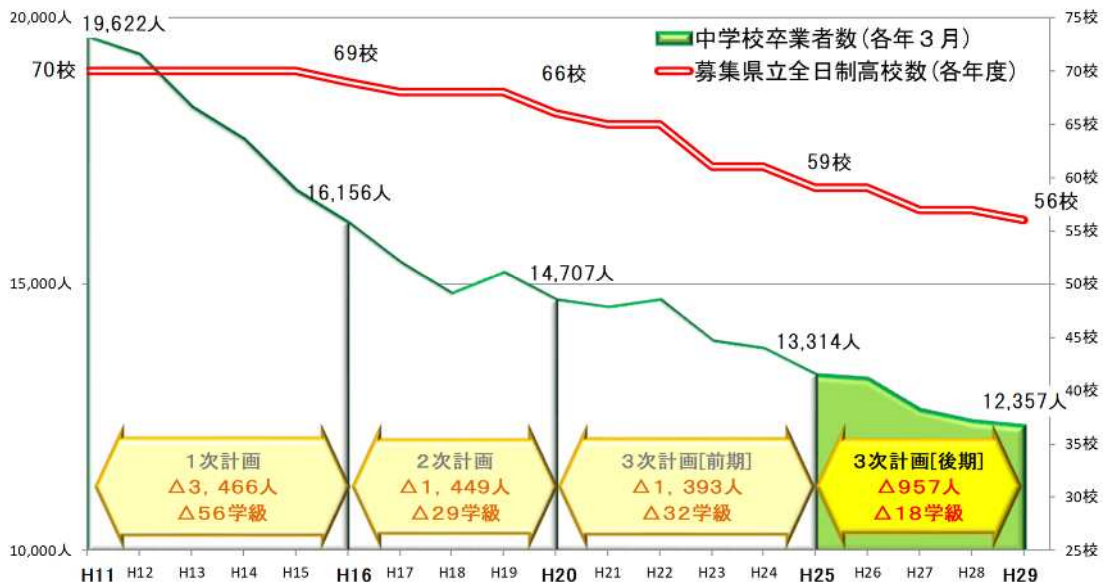
○望ましい学校規模

- ・3市の普通高校 1学年6学級以上
- ・その他の高校 1学年4学級以上

○学校配置の方向性

- ・望ましい学校規模になるよう6地区毎に配置
- ・校舎制導入校は計画的に募集停止
- ・統合は同じ分野の高校を優先

④第3次実施計画【後期】(H26~H29)



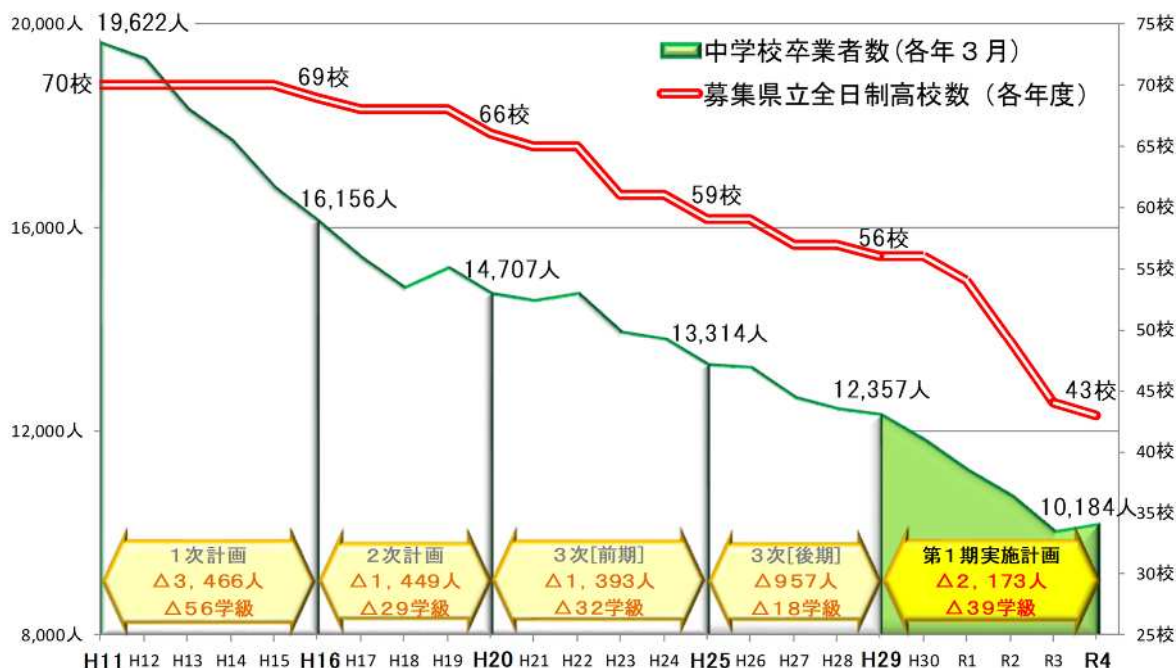
《生徒数減少への対応》

- 第3次実施計画【前期】と同様の基本的な考え方に基づき対応
 <後期計画策定に当たっての留意点>
- これまでの状況や中学校卒業予定者数の推移により望ましい学校規模にならない場合があること
 - 他の県立高校に通学することが困難な地域があること
 - 平成30年度以降に生徒数の急激な減少が見込まれること
- 等を考慮し、柔軟な学校配置とする。

募集停止：

- 岩木高校、
- 八戸北高校南郷校舎、
- 弘前実業高校
- 藤崎校舎

⑤第1期実施計画（H30～R4）



《生徒数減少への対応》

- ・活力ある教育活動を維持するためには一定規模以上の学校であることが望ましいというこれまでの方向性を踏襲
- ・普通科等の「重点校」、職業教育を主とする専門学科の「拠点校」を配置し、これらの高校が各学科の中核的役割を担うことにより、県全体の高校教育の質の確保向上
- ・「高校教育を受ける機会の確保」と「充実した教育環境の整備」の二つの観点を考慮した計画的な学校配置



○学校規模の標準

- ・基本となる学校規模：1学年当たり4学級以上
- ・普通科等の重点校の学校規模：1学年当たり6学級以上
- ・職業教育を主とする専門学科の拠点校の学校規模：1つの専門学科で1学年当たり4学級以上

○学校配置の方向性

- ・学校規模の標準を踏まえるとともに、公共交通機関の利便性等を考慮しながら統合等を含む計画的な学校配置を推進
- ・生徒にとって必要な学科の選択肢を確保するため、異なる学科の高校の統合により、複数の学科を有する高校を設置
- ・高校教育を受ける機会を確保するため、学校規模の標準を満たさない高校であっても「地域校」として配置

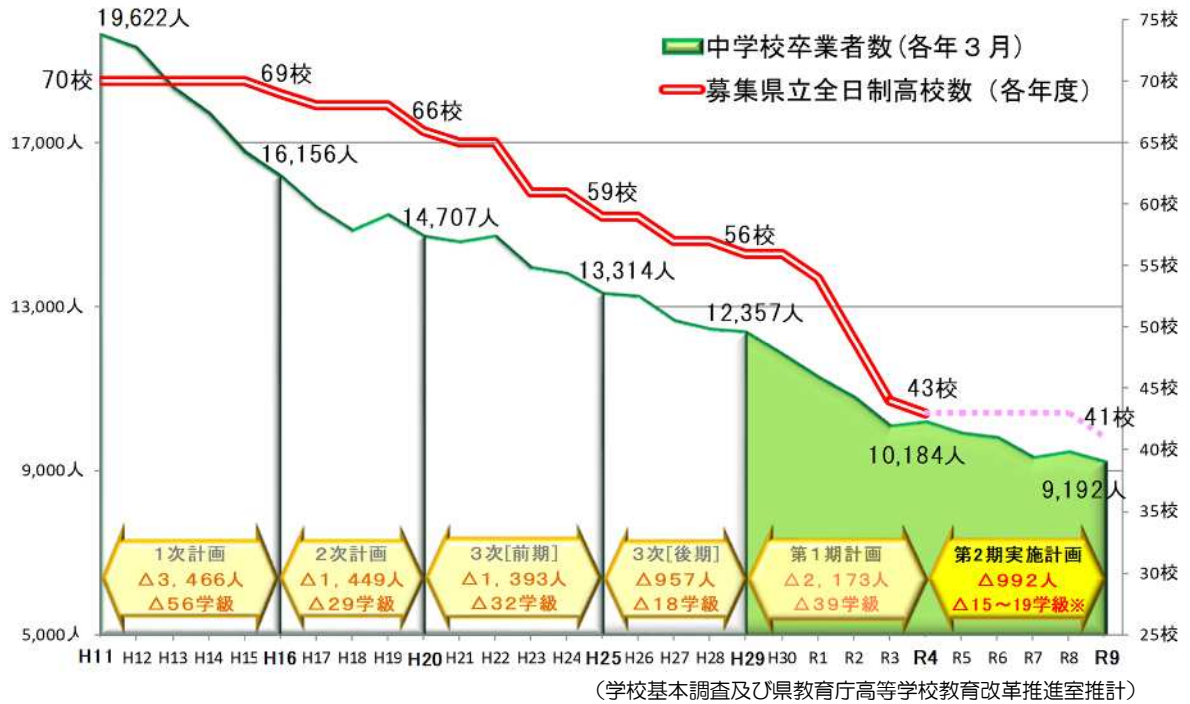
募集停止：

青森東高校平内校舎、大湊高校川内校舎、中里高校、五戸高校、田子高校、青森北高校今別校舎、木造高校深浦校舎

統合：黒石高校、黒石商業高校 →黒石高校

金木高校、板柳高校、鶴田高校、五所川原工業高校 →五所川原工科高校
 十和田西高校、六戸高校、三本木農業高校 →三本木農業恵拓高校

⑥第2期実施計画（R5～R9）



※地域校の規模・配置に関して、基本方針に基づき入学状況等により対応することを踏まえ、学級数に幅を設けて示している。

《生徒数減少への対応》

- ・活力ある教育活動を維持するためには一定規模以上の学校であることが望ましいというこれまでの方向性を踏襲
- ・普通科等の「重点校」、職業教育を主とする専門学科の「拠点校」を配置し、これらの高校が各学科の中核的役割を担うことにより、県全体の高校教育の質の確保向上
- ・「高校教育を受ける機会の確保」と「充実した教育環境の整備」の二つの観点を考慮した計画的な学校配置

↓

○学校規模の標準

- ・基本となる学校規模：1学年当たり4学級以上
- ・普通科等の重点校の学校規模：1学年当たり6学級以上
- ・職業教育を主とする専門学科の拠点校の学校規模：1つの専門学科で1学年当たり4学級以上

○学校配置の方向性

- ・学校規模の標準を踏まえるとともに、公共交通機関の利便性等を考慮しながら統合等を含む計画的な学校配置を推進
- ・生徒にとって必要な学科の選択肢を確保するため、異なる学科の高校の統合により、複数の学科を有する高校を設置
- ・高校教育を受ける機会を確保するため、学校規模の標準を満たさない高校であっても「地域校」として配置

統合：

青森西高校、浪岡高校 → 東青地区統合校

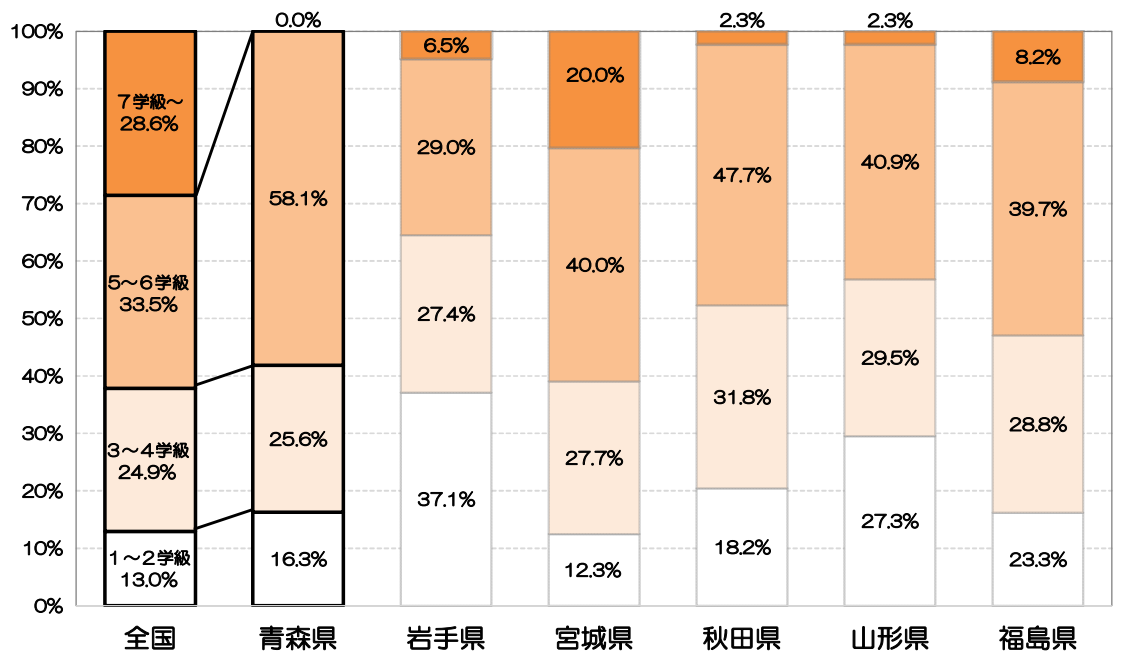
大湊高校、むつ工業高校 → 下北地区統合校

⑧令和5年度県立高等学校（全日制）募集学級別一覧

募集学級数	東青	西北	中南	上北	下北	三八	学校数
6学級	青森 青森西 青森東 青森工業 (35)		弘前 弘前中央 弘前工業 (35) 弘前実業	三本木 三沢 三本木農業 恵拓(35)		八戸 八戸東 (表現科30) 八戸北 八戸西 八戸工業 (35)	16校
5学級	青森北 青森南 青森中央 青森商業	五所川原 五所川原工科 (35)	弘前南 黒石		田名部		9校
4学級		木造 五所川原農林 (35)	柏木農業 (35)	十和田工業 (35)	大湊		5校
3学級				七戸 百石 三沢商業	むつ工業 (35)	八戸水産 (35) 八戸商業	6校
2学級	浪岡 (35)			野辺地	大間(35)	名久井農業 (35)	4校
1学級		鱒ヶ沢		六ヶ所		三戸	3校
学校数	9校	5校	7校	9校	4校	9校	43校
学級数	46学級	19学級	38学級	34学級	14学級	39学級	190学級

※（35）…1学級35人編制としている学校

⑨学校規模の状況（令和4年度・他県との比較）



（県教育庁高等学校教育改革推進室調べ）

4 高等学校における重点的な取組

(1) 青森県教育振興基本計画【計画期間：令和元年度～令和5年度】

① 青森県教育施策の方針（平成26年1月決定）

青森県教育委員会は、郷土に誇りを持ち、多様性を尊重し、創造力豊かで、新しい時代を主体的に切り拓く人づくりを目指します。このため、

- ・ 夢や志の実現に向け、知・徳・体を育む学校教育
- ・ 学びを生かし、つながりをつくり出す社会教育
- ・ 次代へ伝える、かけがえのない文化財の保存・活用
- ・ 活力、健康、感動を生み出すスポーツ

を、市町村教育委員会、家庭や地域社会との連携を図りながら推進します。

② 2030年の目指す姿

- ・ あおもりを愛し、新しい時代を主体的に切り拓く青森県民
- ・ 社会全体が連携し、一貫して育む「生きる力」
- ・ 多様な人財が活躍し、支える青森県
- ・ 生きがいを感じ、心豊かに暮らせる地域
- ・ 歴史・文化が息づく青森県
- ・ スポーツが盛んな青森県

③ 政策・施策体系

1 あおもりの未来をつくる人財の育成

(1) 青森を理解し、世界に向かってチャレンジできる人づくり

(2) 「知・徳・体」の調和のとれた「生きる力」の育成

(3) 一人ひとりの教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進

(4) 子どもが安心して学び、多様な能力を伸ばす教育環境の整備

(5) 「生きる・働く・学ぶ」をつなぐキャリア教育の推進

(6) 学校・家庭・地域が連携し社会全体で子どもを育む仕組みづくり

2 あおもりの今をつくる人財の育成

(1) 活力ある持続可能な地域づくりのための人づくり

(2) 生涯を通じた学びと社会参加活動の拡大

3 あおもりの活力をつくる文化・スポーツの振興

(1) 歴史・文化の継承と活用

(2) 健康でスポーツに親しむ環境づくりと競技力の向上

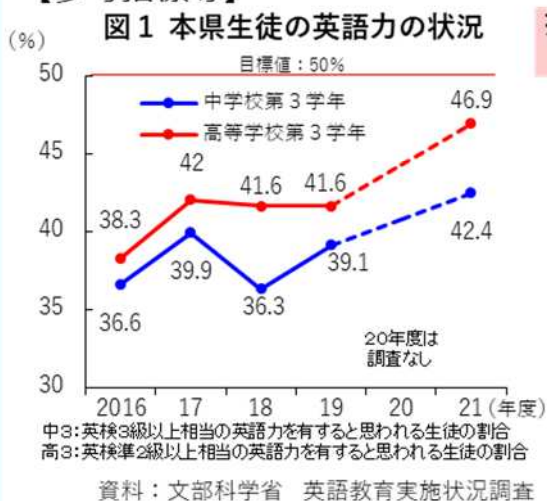
(2) 青森県教育振興基本計画の各政策・施策における現状・課題及び今後の方向性

◆青森を理解し、世界に向かって チャレンジできる人づくり

【現状・課題】

- 生徒の英語力は前回調査から着実に高まっているが、更なる向上が必要である（図1）。
- 子どもたちに地域への愛着を持たせ、郷土への貢献意欲を育む取組を推進していく必要がある。

【参考指標等】



持続可能な地域づくり「あおり創造学」 プロジェクト事業(2022~24)



令和4年度は県立高校26校において、
地域について理解を深める学習を実施。

【今後の方向性】

- 外国語教育の充実（英語担当教員の指導力向上、英語教育における小中連携の促進等）、国際的素養を身に付けたグローバル人材の育成（国際バカロレアの理念に基づく教育の推進、台湾の高校との相互交流等）。
- 探究・STEAM教育の推進（全県立高校で地域への理解を深める学習「あおり創造学」を通じた地域課題解決型学習を実施する等）。

◆ 「知・徳・体」の調和のとれた 「生きる力」の育成

【現状・課題】

- 全国学力・学習状況調査における本県の平均正答率は、全国平均を上回るか同程度であり、引き続き確かな学力の向上を図る必要がある（図2）。
- 児童生徒のICT活用を指導する教員の能力は、概ね全国平均と同等である（図3）。
- 部局横断的な幼児教育に係る取組の推進が必要である。

【参考指標】

図2 令和4年度全国学力・
学習状況調査（平均正答率）

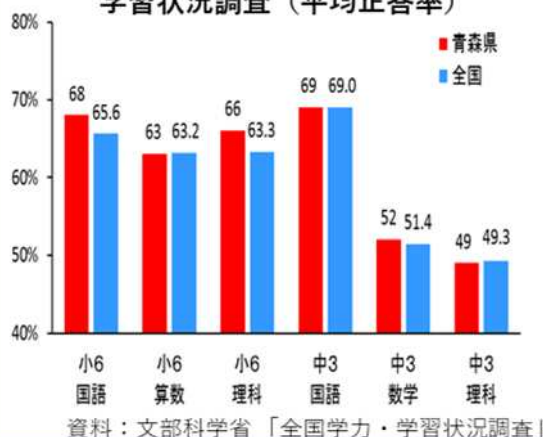
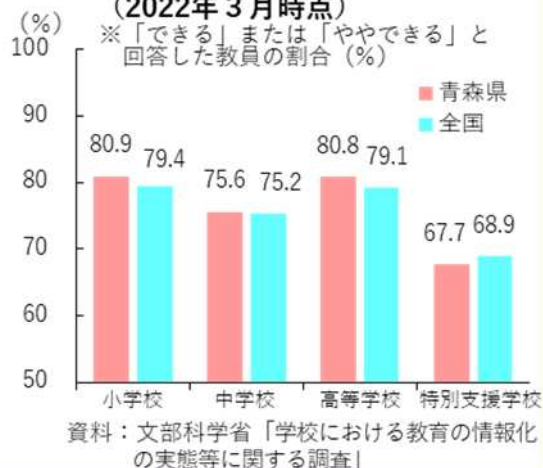


図3 児童生徒のICT活用を指導する能力
(2022年3月時点)



【今後の方向性】

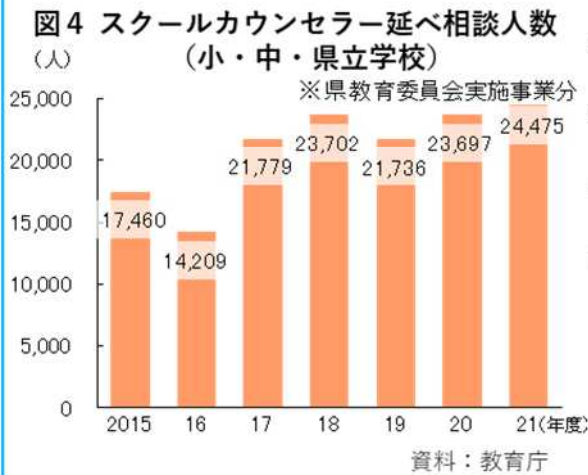
- 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善、個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実、ICT活用指導力向上と児童生徒の情報活用能力の育成等。
- 幼保小の連携推進など幼児教育の質の向上を図る支援等（総務部、健康福祉部と連携）。

◆ 「知・徳・体」の調和のとれた 「生きる力」の育成

【現状・課題】

- スクールカウンセラーへの延べ相談人数は、2017年度から2万人を超えて推移するとともに（図4）、県内小・中学校の不登校児童生徒数は、急激に増加している（図5）。
- いじめ、不登校など諸問題の未然防止、早期発見・解消に向けた取組の更なる推進が必要である。

【参考指標】



【今後の方向性】

- いじめ等への対応、不登校児童生徒への支援の推進（組織的対応力の向上、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの効率的・効果的な配置・派遣、関係機関等との連携の強化等による相談・支援体制の充実）。
- 発達支持的生徒指導の推進（生徒の自発的な発達を教職員が支援）

◆一人ひとりの教育的ニーズに応じた 特別支援教育の推進

【現状・課題】

○特別支援学校高等部生徒の就職率は近年概ね30%以上となっている（図8）。引き続き、特別支援学校児童生徒の進路実現のための体制整備やキャリア教育及び職業教育の充実が必要である。

○特別な教育的ニーズのある児童生徒は、増加傾向にある（図9）。

【参考指標】

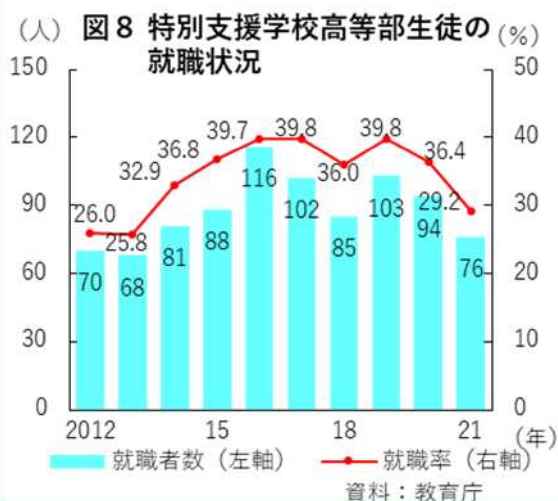


図9 特別支援学校及び特別支援学級の児童生徒数



【今後の方向性】

○企業・関係団体等との連携による職業教育の充実（「特別支援学校技能検定」の充実等）や、ICTを活用した自立と社会参加を目指す学びの推進。

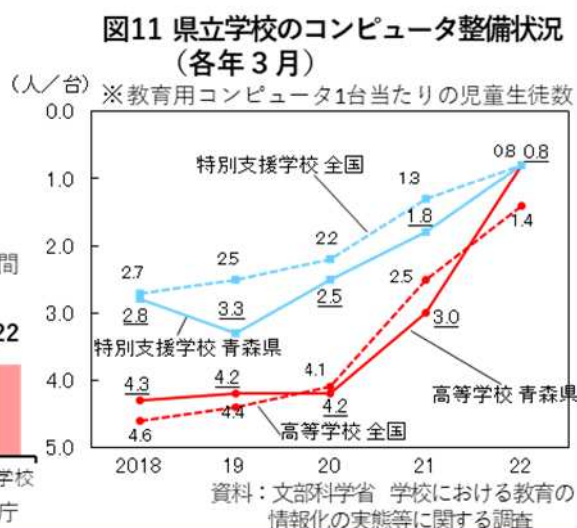
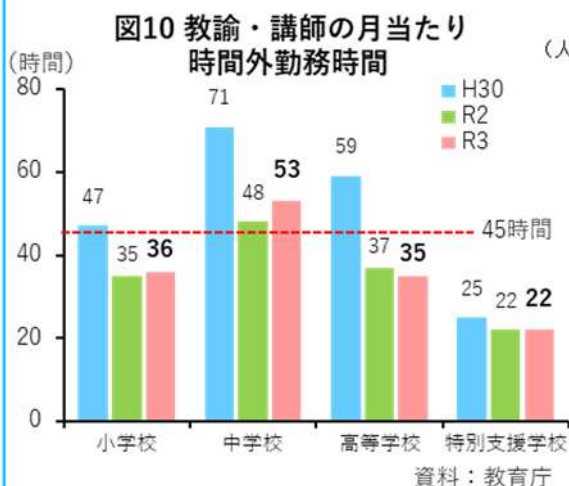
○特別支援教育の更なる充実（医療的ケア児対応の充実、特別支援教育に携わる教職員の資質向上、地域における特別支援教育相談体制の充実等）。

◆子どもが安心して学び、多様な能力を伸ばす教育環境の整備

【現状・課題】

- 本県の教員の時間外勤務時間は、減少傾向にある（図10）が、引き続き教員が子どもに向き合う時間の確保、新しい時代にふさわしい質の高い教育の実現に向けた体制の構築などが必要である。
- 公立学校において児童生徒1人1台の情報端末の整備が完了し（図11）、その効果的な活用が求められている。

【参考指標】



【今後の方向性】

- 公教育を担う人財の確保・育成の充実強化、学校における働き方改革の更なる推進、外部人材（スクールサポートスタッフや部活動指導員等）の配置推進等。
- デジタル化を含む社会の急速な変化に対応するための、本県における学校教育の情報化に関する施策の総合的かつ計画的な推進。

◆ 「生きる・働く・学ぶ」をつなぐ キャリア教育の推進

【現状・課題】

- 新規高等学校卒業者の県内就職率については、上昇傾向にあるものの、東北各県と比べると低い（図12, 13）。
- 引き続き、高校生の県内就職促進、若者の県内定着促進に向けた取組が必要である。

【参考指標】

図12 新規高等学校卒業者の
県内就職率について

卒業年月	県内 就職希望者	県内 就職内定者
	前年6月時点	当年3月末時点
令和2年3月	63.0%	53.1%
令和3年3月	64.3%	57.0%
令和4年3月	68.0%	62.3%
令和5年3月	67.5%	-

資料：青森労働局

図13 高等学校卒業者の県内就職率

() は都道府県順位

	令和3年3月卒	令和4年3月卒
青森県	58.7% (47)	62.6% (45)
岩手県	70.9% (39)	72.9% (37)
宮城県	81.1% (23)	82.1% (21)
秋田県	72.6% (37)	75.8% (35)
山形県	80.0% (28)	80.2% (29)
福島県	82.5% (20)	83.8% (19)
東北平均	75.3%	77.2%
全国平均	81.9%	82.5%

資料：文部科学省「学校基本調査」

※ 図12 青森労働局における調査では公務員、自営等の就職が除かれているが、
図13 文部科学省「学校基本調査」では公務員、自営等の就職が含まれているため、就職率に差がある。

【今後の方向性】

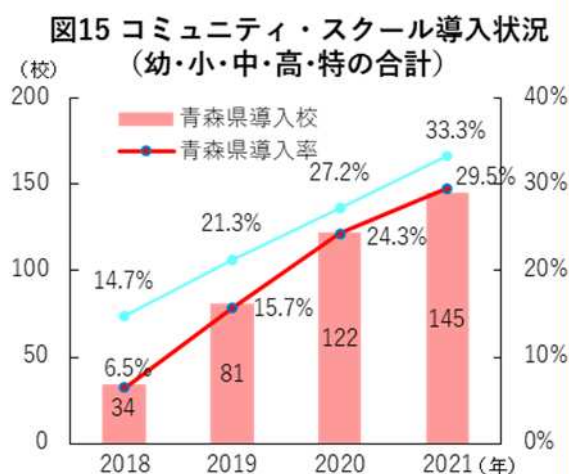
- 県内定着促進の充実・強化（就職支援員の配置、学校と県内企業の相互理解促進等）。
- 探究・STEAM教育の推進（全県立高校で地域への理解を深める学習「あおもり創造学」を通じた地域課題解決型学習を実施する等）。（再掲）

◆学校・家庭・地域が連携し 社会全体で子どもを育む仕組みづくり

【現状・課題】

- 地域学校協働本部の整備率やコミュニティ・スクール導入状況はいずれも全国平均を下回っている（図14,15）。
- 市町村に対する地域学校協働本部の整備促進、県立高等学校への学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の導入など、地域とともにある学校づくりが必要である。

【参考指標】



資料(図14,15)：文部科学省「地域と学校の連携・協働体制の実施・導入状況」

【今後の方向性】

- 地域学校協働活動本部とコミュニティ・スクールの更なる設置推進（市町村における地域学校協働活動支援、モデル県立学校と地域とのコーディネート支援、県立学校へのコミュニティ・スクール導入の推進等）。
- 地域の実情に応じ、部活動の地域連携や地域クラブ活動への移行を支援。
- 社会の変化やニーズを踏まえた家庭教育支援の充実。

5 教育活動の充実に向けた主な取組

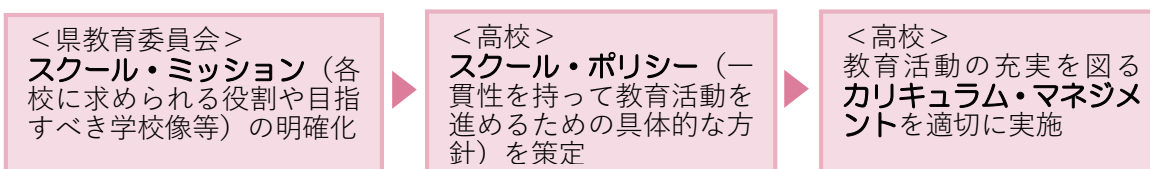
(1) スクール・ミッション等

① 趣旨

各校の特色ある教育活動の推進に資するよう、県教育委員会において、地域の実情を踏まえながら、各校に求められる役割や目指すべき学校像等をスクール・ミッションとして令和4年12月に決定した。

スクール・ミッションに基づき、一貫性を持って教育活動を進めるため、各校において、育成すべき資質・能力、教育課程の編成及び実施、入学者の受入れに関する具体的な方針をスクール・ポリシーとして、令和5年3月に策定した。

今後は、スクール・ポリシー等に基づき、教育課程を編成・実施・評価・改善するとともに、地域の人的・物的資源等を効果的に活用しながら、教科横断的な視点で組織的かつ計画的に教育活動の充実を図るカリキュラム・マネジメントを実施する。



② 対象校

全ての県立高等学校

(2) 「あおもり創造学」の推進

① 趣旨

地域と協力しながら生徒一人一人の「ふるさとあおもり」への愛着や誇り、夢を抱き未来に向かって挑戦する意欲を醸成するため、「持続可能な地域づくり『あおもり創造学』プロジェクト事業」により、総合的な探究の時間等において、高校の所在する地域のみならず、自身が居住する地域や生まれ育った地域等について理解を深める学習である「あおもり創造学」を進める。

② 推進校

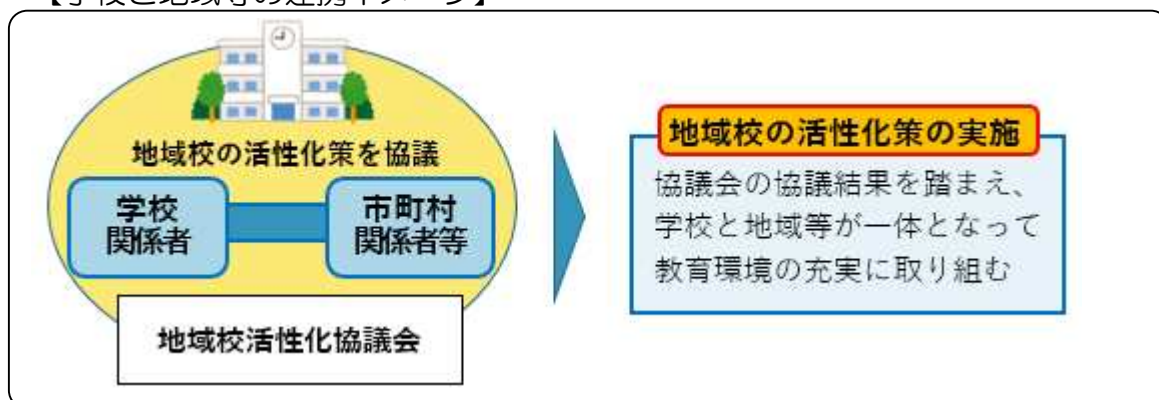
令和4年度：26校、令和5年度：全ての県立高等学校

(3) 地域校の活性化

① 趣旨

地域校の活性化に向け、学校関係者と市町村関係者等で構成する地域校活性化協議会における協議結果等を踏まえ、地域等と連携・協力しながら、自然、歴史、文化、産業等の地域資源を活用した教育活動や地域課題の解決に向けた教育活動を進めるなど、学校と地域等が一体となって教育環境の充実に取り組む。

【学校と地域等の連携イメージ】



② 対象校

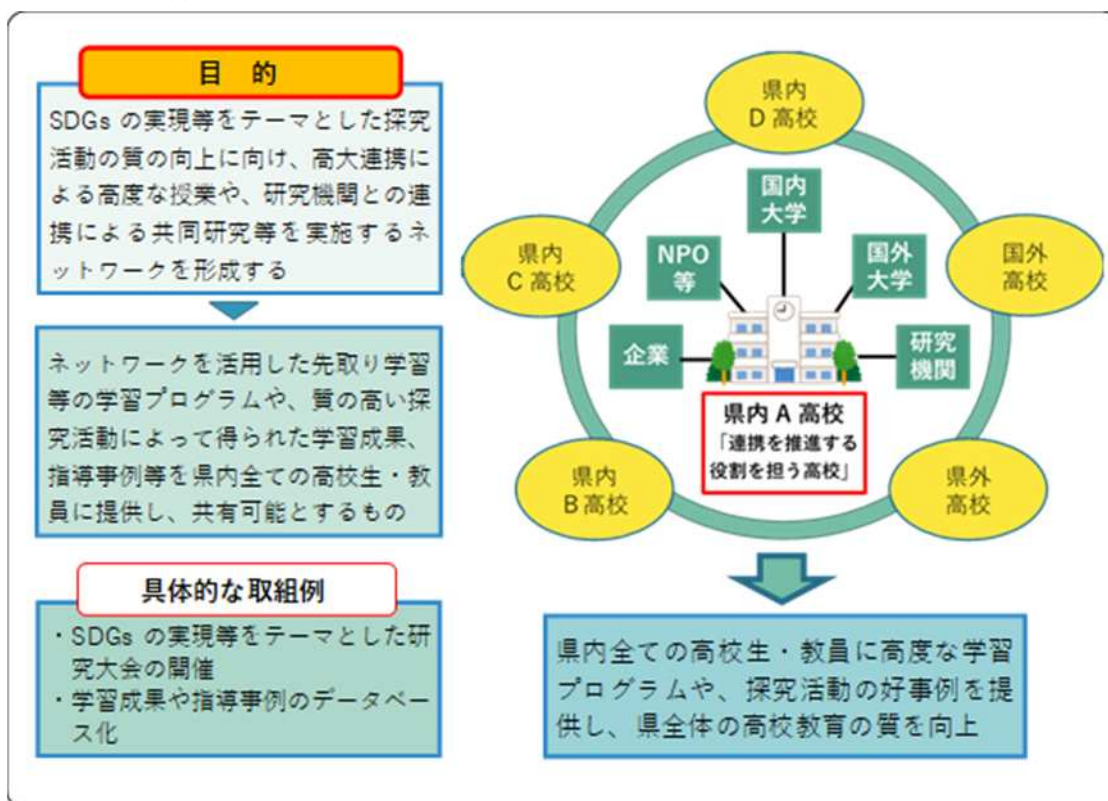
鱒ヶ沢高校、六ヶ所高校、大間高校、三戸高校

(4) コンソーシアム（共同事業体）の構築

① 趣旨

グローバルな社会課題に係る探究活動や高校段階から大学レベルの教育・研究に取り組むなど、生徒の進路志望に応じた高度な学びを提供するため、国内外の高校や大学等と連携したコンソーシアムの構築等を進める。

【共同事業体（コンソーシアム）の構築イメージ】



(5) 全国からの生徒募集

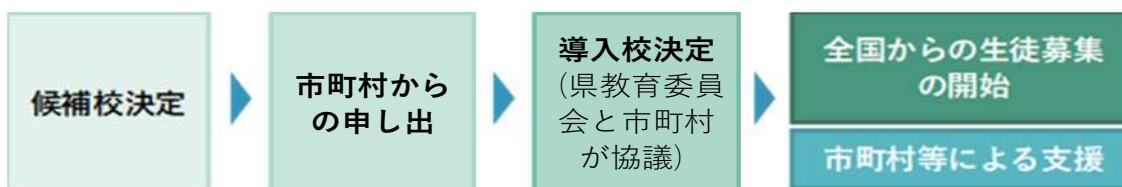
① 趣旨

県外から目標を持った生徒を受け入れることにより、高校の活性化を進めるため、高校が所在する市町村の意向等を踏まえながら、全国からの生徒募集を実施する。

導入校の決定方法

以下のいずれかに該当する高校（候補校）のうち、高校が所在する市町村から支援を前提とする申し出があった高校について、県教育委員会と市町村が協議した上で導入校として決定

- ①第2期実施計画において地域校とする高校
- ②過去5年の定員充足率の平均が90%以下の高校
(第2期実施計画における統合対象校を除く)



② 導入校

鱒ヶ沢高校、柏木農業高校、大間高校、三戸高校、名久井農業高校

(6) ドリカム人づくり推進事業

① 趣旨

児童生徒の夢の実現や地域の活性化に向けて、児童生徒のアイデアを取り入れ、向上心や積極的に学ぶ意欲などチャレンジする心をはぐくむ事業を企画・展開する県立学校を推進校に指定し、「人づくり」を目指した活力あふれる学校づくりを推進する。

また、県全体の普通科等における教育の質の確保・向上に向けた重点校と各校との連携や、県全体の職業教育を主とする専門学科における教育の質の確保・向上に向けた拠点校と各校との連携を推進するため、推進校を指定し、取組を支援する。

② 推進校

県立学校18校程度（毎年度指定）

(7) スーパーサイエンスハイスクール（文部科学省事業）

① 概要

将来の国際的な科学技術関係人材を育成するために、先進的な理数系教育を実施する高等学校等をスーパーサイエンスハイスクール（SSH）として、文部科学省が指定し、学習指導要領によらないカリキュラムの開発・実践や課題研究の推進、観察・実験等を通じた体験的・問題解決的な学習等を支援する事業。

平成14年度から実施し、令和4年度末現在、全国で290校を指定（文部科学省HPより）。

② 本県の指定校及び主な取組

<p>■ 県立弘前南高等学校（平成28年度～令和4年度）</p> <ul style="list-style-type: none">1年次の全生徒が共通テーマで探究活動に取り組み、「探究の方法・プロセス」について学習する。2年次の全生徒に対して、講演会・講座を複数回実施し、地域課題について学ぶ。3年次は、SSHクラス（南陵ラボⅢ）において、理科の応用実験を行い、課題研究の内容を英語で発表することにより、科学的な想像力や発信力を高める。 <p>また、2・3年次のSSHクラス（南陵ラボⅡ・Ⅲ）において科学教育プロジェクト（研究課題）に取り組み、科学的な思考力、実践力、創造力、発信力をより高め、国際的な視野を持った科学技術人材を育成する。</p>
<p>■ 県立青森高等学校（平成29年度～）</p> <ul style="list-style-type: none">第1学年の全生徒を対象に、学校設定科目「プロジェクト学習」として、特定のテーマに基づく知識を身に付け、テーマと課題の違いを学んだのち、感心に応じてグループを形成し、3年間を通じて取り組む課題研究の課題を設定する。第2学年理型生徒を対象に、学校設定科目「SS探究」として、科学的な課題研究を行う上で必要となる力を育み、研究内容をより充実したものとするためのスキルアップを行う。また、文型と合同で文理融合型の課題研究に取り組む。第3学年理型生徒を対象に、学校設定科目「SS創造」として、SS探究を通じて育んだ力を活用し、1年間かけて実践してきた課題研究に人文・社会学的視点からの考察を加えて内容を深化させ、個別に報告書を作成する。その他、第1学年生徒及び第2・3学年理型希望生徒を対象に、放課後ラボ、科学技術体験セミナー、企業・研究所体験研修、研究大会・発表会等への参加、海外研修、サイエンス教室、フィールドワーク等に取り組む。

(8) スーパーグローバルハイスクール（文部科学省事業）

① 概要

急速にグローバル化が加速する現状を踏まえ、社会課題に対する関心と深い教養に加え、コミュニケーション能力、問題解決力等の国際的素養を身に付け、将来、国際的に活躍できるグローバル・リーダーを高等学校段階から育成することを目的に、大学、企業、国際機関等と連携を図り、グローバルな社会課題を発見・解決できる人材や、グローバルなビジネスで活躍できる人材の育成に取り組む高等学校等をスーパーグローバルハイスクール（SGH）として、文部科学省が指定し、質の高いカリキュラムの開発・実践やその体制整備を進める事業。

平成26年度から平成28年度までの間、全国で123校を指定（文部科学省HPより）。

② 本県の指定校及び主な取組

■ 県立青森高等学校（平成26年度～令和3年度）
<ul style="list-style-type: none">• 本県の全方位的な海上アプローチの良さと物流拠点としてのポテンシャルという大きな強みを生かした青森県ロジスティックス（※）戦略を視野に入れ、青森県の農林水産物・伝統工芸品などの世界各国への販路拡大、青森県への観光客誘致等を探究型学習の課題とする。• 「多様性の理解に基づき課題を設定する力」「グローバルマインドに基づく企画力」「ビジネスモデルの開発による理論と実践を融合する力」の3つの力の育成を目標とした教育プログラムを開発する。• 青森中央学院大学の東南アジアからの留学生やニュージーランド・ローズヒルカレッジ高等学校、アメリカ・メイン州ホールデル高等学校との協同学習やディスカッション等を通じて、異文化の中でのチームワークや相互尊重の態度を培う。
※ロジスティックス…原材料の調達、生産、保管、販売、情報などの全体的な流れを統合的なシステムとして動かすこと。

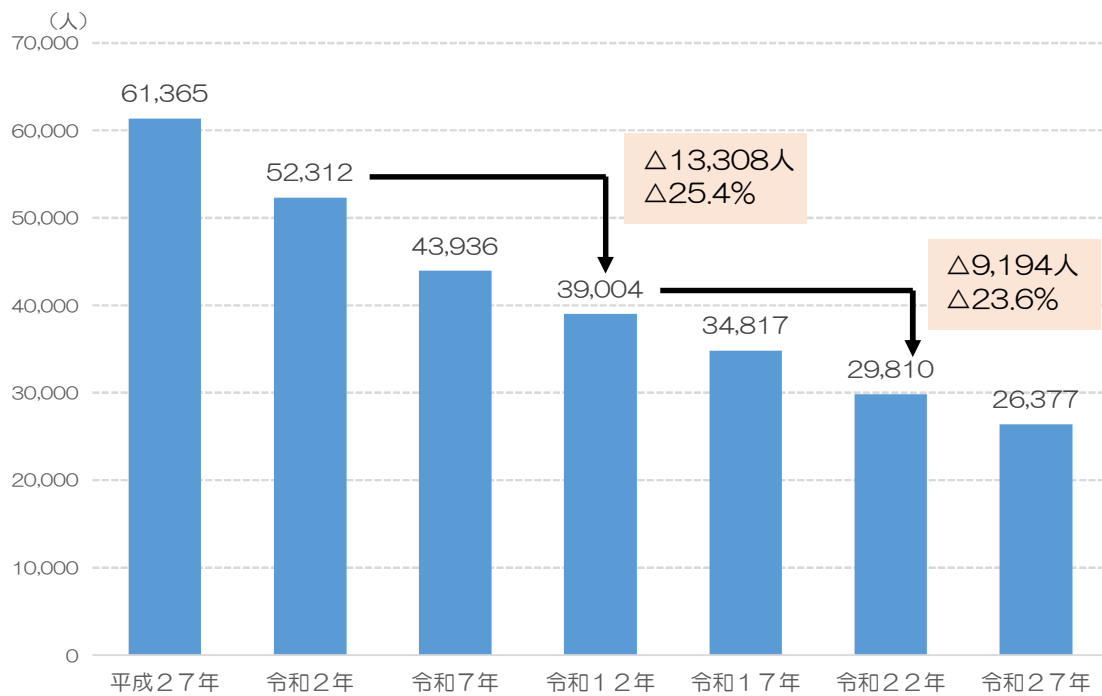
6 今後の本県における中学校卒業生数及び人口の見込み

(1) 中学校卒業（見込）者数の推移

(県教育庁高等学校教育改革推進室推計)



(2) 青森県の将来推計人口（15～19歳人口）



「日本の地域別将来推計人口」

(平成30年3月推計：国立社会保障・人口問題研究所公表数値)

7 高校教育改革の検証

魅力づくり検討会議における魅力ある県立高等学校の在り方の検討に当たって、これまでの県立高等学校の将来構想の検討の際にも実施してきた次の2つの調査等により、これまでの高等学校教育改革の取組について検証等を行う。

①高等学校教育に関する意識調査

〔目的〕

中学生や高校生、保護者、教員等の意識調査を実施し、今後の高等学校の在り方について検討するための資料を得る。併せて、高等学校教育改革で取り組んできた多様な教育制度等に関する生徒の理解度、関連情報の入手方法、入学後の満足度等について、高校生を対象とした調査も実施する。

【全体調査】

〔対象〕

・中学校2年生	(1,000人)	・中学生保護者	(1,000人)
・高等学校2年生	(1,000人)	・高校生保護者	(1,000人)
・小・中学校教員	(300人)	・高等学校教員	(150人)
・大学教員	(150人)	・市町村関係者	(40人)
・企業	(500人)	計	5,140人

〔概要〕

- ・高等学校生活、高等学校卒業後の進路等について
- ・高等学校への通学方法等について
- ・新しいタイプの高等学校の必要性等について
- ・高等学校の規模等に関する考え方について
- ・小・中学校、高等学校、大学、地域との連携について
- ・魅力ある高等学校づくりについて

【個別調査】

〔対象〕

以下の高等学校3年生

・総合学科導入校	(160人)	
・全日制普通科単位制高校	(160人)	
・併設型中高一貫教育導入校	(80人)	
・定時制3部制導入校	(194人)	
・総合選択制導入校	(200人)	
・普通科と職業に関する専門学科併置校	(435人)	計 1,229人

〔概要〕

- ・各教育制度等の理解度、高等学校を選んだ理由
- ・各教育制度等に満足している点、不満な点

② 県高等学校長協会、県小学校長会及び県中学校長会への意見照会

〔目的〕

県高等学校長協会(各部会含む)、県小学校長会及び県中学校長会に対し、学校・学科の在り方及び高等学校の規模・配置に関し、これまでの取組及び今後の方向性について意見を伺い、今後の高等学校の在り方について検討するための資料を得る。

〔対象〕

- ・ 県高等学校長協会
- ・ 各部会（普通、農業、工業、商業、水産、家庭、看護、理数、英語、体育、総合学科、定通、特別支援）
- ・ 県小学校長会
- ・ 県中学校長会

〔概要〕

- ・ これからの時代に求められる力を育む学校・学科の在り方に関する成果、課題、今後の方向性
- ・ 生徒一人一人に充実した教育を提供するための学校配置に関する成果、課題、今後の方向性

③ 学校視察

〔目的〕

学科の種別、学校の特色、地域バランス等を考慮して学校視察を実施し、県立高等学校の現状を把握し、今後の高等学校の在り方についての検討に資する。

〔実施校選定の視点〕

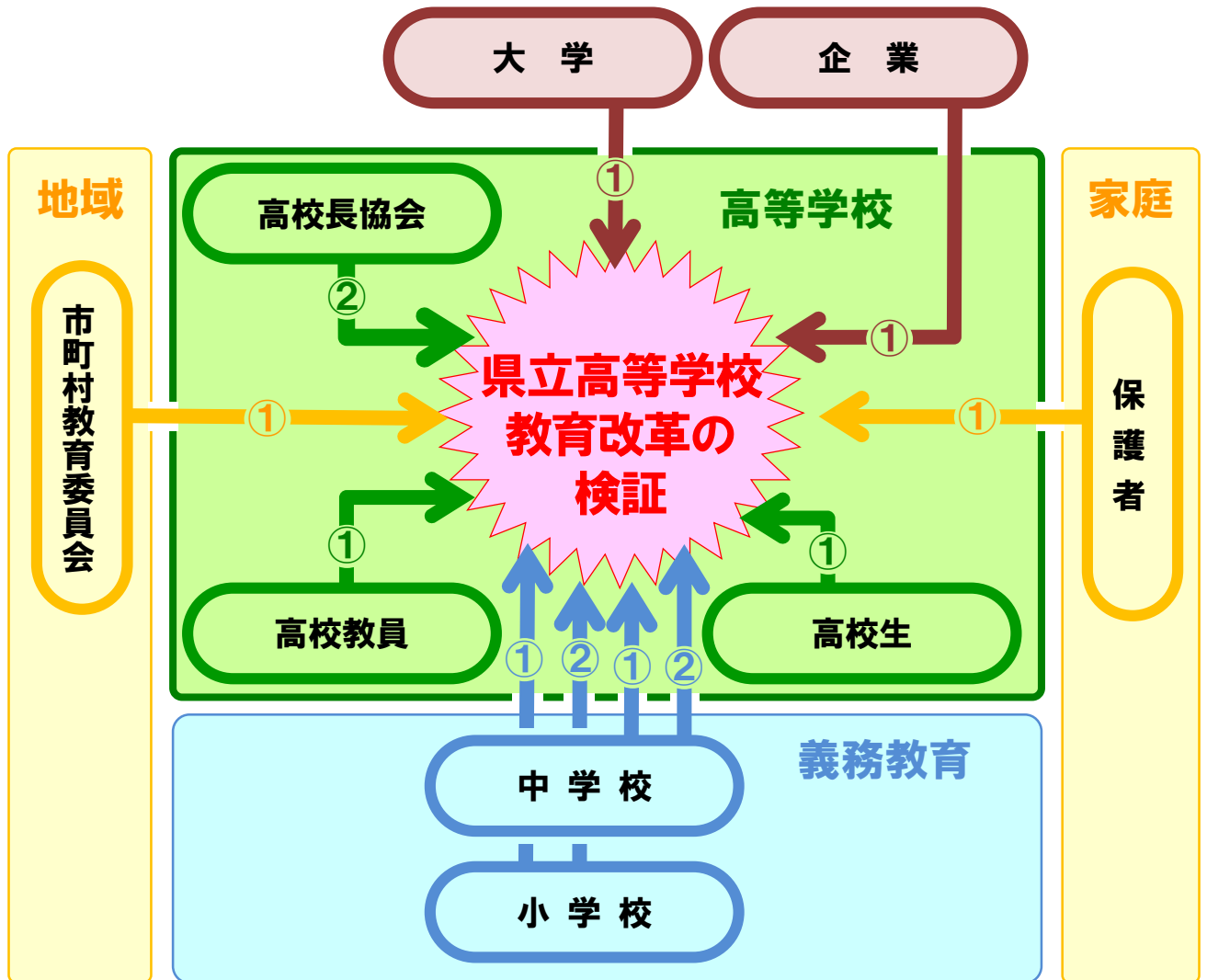
- ・ 普通科、専門学科、総合学科の学科種別
- ・ 中高一貫教育、単位制、総合選択制、3部制の定時制の課程等の取組
- ・ 学校規模 等

〔実施方法〕

魅力づくり検討会議の開催会場（分科会や地区部会）を視察校とし、会議の前後に県立高等学校の視察を実施する。

《県立高等学校教育改革の検証のために実施する調査等イメージ》

- ① 高等学校教育に関する意識調査
- ② 県高等学校長協会、県小学校長会及び県中学校長会への意見照会
- ③ 学校視察



③ 検討会議の委員による学校視察

参 考 资 料

1 青森県立高等学校の概要

〔課程の種類〕

全日制の課程	通常の課程
定時制の課程	夜間その他特別の時間又は時期において授業を行う課程
通信制の課程	通信による教育を行う課程

(学校教育法第4条)

〔学年制と単位制〕

学年制	学年ごとに教育課程の修了の認定を受けて学習していく制度
単位制	学年による教育課程の区分を設けず、決められた単位を修得すれば卒業が認められる制度

〔県立高等学校の設置状況（令和5年度）〕

課程・学科等			東青	西北	中南	上北	下北	三八	
全日制	学年制	普通科等	普通科	青森 青森西 青森北 青森南 浪岡	五所川原 鯉ヶ沢 五所川原工科	弘前 弘前中央 黒石	三本木 三沢 野辺地 百石 六ヶ所 <small>三本木農業恵拓</small>	田名部 大間	八戸 八戸東 八戸西 三戸
			理数科		五所川原				
			外国語科	青森南					
			スポーツ科学科	青森北		弘前実業			八戸西
			表現科						八戸東
		職業教育を主とする専門学科	農業科		五所川原農林	柏木農業	<small>三本木農業恵拓</small>		名久井農業
			工業科	青森工業	五所川原工科	弘前工業	十和田工業	むつ工業	八戸工業
			水産科(専攻科 ^{※1})						八戸水産
			商業科	青森商業		弘前実業 黒石	三沢商業		八戸商業
			家庭科			弘前実業	百石		
			看護科(専攻科 ^{※1})		黒石				
	単位制	単位制	普通科	青森東		弘前南			八戸北
			総合学科	青森中央	木造		七戸	大湊	
	定時制	単位制	3部制 ^{※2}	普通科	北斗				八戸中央
総合学科						尾上総合			
夜間		普通科		五所川原		三沢	田名部		
通信制	単位制	普通科	北斗		尾上総合			八戸中央	

※1 専攻科 … 高等学校を卒業した者が、より専門性の高い知識や高度な技術を身に付けることを目的として、本県では看護科と水産科に設置。

※2 3部制の定時制の課程 … 午前、午後、夜間等の時間帯で授業を行い、仕事の時間や学習スタイルに合わせて、他の部の授業を受けることなどにより3年での卒業も可能。

〔参考：私立高等学校の設置状況（令和5年度）〕

課程・学科等		東青	西北	中南	上北	下北	三八	
全 日 制	学 年 制	普通科等	普通科	東奥学園 青森山田 青森明の星 松風塾	五所川原第一	東奥義塾 弘前学院聖愛 柴田学園 弘前東		千葉学園 八戸聖ウルスラ学院 八戸学院光星 向陵 八戸工業大学第一 八戸工業大学第二
			外国語科	青森明の星				八戸聖ウルスラ学院
			音楽科					八戸聖ウルスラ学院
		職業教育を主とする専門学科	工業科			弘前東		八戸工業大学第一
			商業科	青森山田	五所川原商業	柴田学園		
			家庭科	東奥学園 青森山田		柴田学園		千葉学園 八戸学院光星
			情報科	東奥学園				
			福祉科	東奥学園				
			看護科	東奥学園				千葉学園
	単位制		総合学科				八戸学院野辺地西	
通 信 制	普通科	東奥学園 青森山田	五所川原第一					

2 令和5年度県立高等学校等募集人員

【全日制】

学校別・学科別			募集人員	学校別・学科別			募集人員		
東	青森	普通科	240	中	弘前	普通科	240		
	青森西	普通科	240		弘前中央	普通科	240		
	青森東	普通科	240		弘前南	普通科	200		
	青森北	普通科	160		黒石	普通科	120		
		スポーツ科学科	40			情報デザイン科	40		
	計	200	看護科			40			
	普通科	160	計			200			
	青森南	外国語科	40		柏木農業	生物生産科	35		
		計	200			環境工学科	35		
	青森中央	総合学科	200			食品科学科	35		
浪岡	普通科	70	生活科学科	35					
青	青森工業	機械科	35	弘前工業	計	140			
		電気科	35		機械科	35			
		電子科	35		電気科	35			
		情報技術科	35		電子科	35			
		建築科	35		情報技術科	35			
		都市環境科	35		土木科	35			
	計	210	建築科	35					
	青森商業	商業科	160	弘前実業	計	210			
		情報処理科	40		商業科	80			
	計	200	情報処理科		40				
五所川原	普通科	160	弘前実業		家庭科学科	40			
	理数科	40			服飾デザイン科	40			
	計	200			スポーツ科学科	40			
木造	総合学科	160		計	240				
西	鱒ヶ沢	普通科	40	三	八戸	普通科	240		
		生物生産科	35		八戸東	普通科	200		
	森林科学科	35	表現科			30			
	環境土木科	35	計			230			
	五所川原農林	食品科学科	35		八戸北	普通科	240		
		計	140			八戸西	普通科	200	
		普通科	70				スポーツ科学科	40	
	五所川原工科	機械科	35		計	240			
		電子機械科	35		八戸	三戸	普通科	40	
		電気科	35			名久井農業	生物生産科	35	
計		175	環境システム科	35					
計	175	計	70						
海洋生産科	35								
水産食品科	35								
水産工学科	35								
計	105								
上	三本木	普通科	240	八	八戸工業	機械科	35		
		普通科	240			電気科	35		
		普通科	80			電子科	35		
	総合学科	120	土木科			35			
	百石	普通科	80		建築科	35			
		食物調理科	40		材料技術科	35			
	計	120	計	210					
	六ヶ所	普通科	40	八戸商業	商業科	80			
		普通科	70		情報処理科	40			
	三本木農業恵拓	植物科学科	35		計	120			
動物科学科		35	田名部		普通科	200			
環境工学科		35		大湊	総合学科	160			
食品科学科		35			大間	普通科	70		
計		210		機械科		35			
十和田工業	機械・エネルギー科	35	むつ工業	電気科	35				
	電気科	35		設備・エネルギー科	35				
	電子科	35	計	105					
	建築科	35	北	八戸	普通科	240			
計	140	合		計	7,325				
三沢商業	商業科			80	下	八戸商業	商業科	80	
	情報処理科			40		情報処理科	40		
計	120			計		120			
田名部	普通科			200		北	むつ工業	機械科	35
	総合学科			160			電気科	35	
	普通科			70			設備・エネルギー科	35	
大湊	普通科			70		計	105		
	機械科			35		北	むつ工業	機械科	35
	電気科		35	電気科			35		
	設備・エネルギー科	35	設備・エネルギー科	35					
計	105	計	105						

【定時制】

学校別・学科別			募集人員
北 斗	普 通 科	午 前 部	40
		午 後 部	40
		夜 間 部	40
		計	120
五 所 川 原	普 通 科	夜 間 部	40
尾 上 総 合	総 合 学 科	I 部	40
		II 部	40
		III 部	40
		計	120
三 沢	普 通 科	夜 間 部	40
田 名 部	普 通 科	夜 間 部	40
八 戸 中 央	普 通 科	午 前 部	40
		午 後 部	40
		夜 間 部	40
		計	120
合 計			480

【通信制】

学校別・学科別			募集人員
北 斗	普 通 科		200
尾 上 総 合	普 通 科		150
八 戸 中 央	普 通 科		150
合 計			500

【専攻科】

学科別	募集人員
漁 業 科	10
機 関 科	10
計	20

【県立中学校】

学校名	募集人員
青森県立三本木高等学校附属中学校	80

3 第1次進路志望状況調査及び入学者数

東青地区の県立高等学校 基礎データ

【全日制】

学校名	学科名	R5 学級数	R5 募集人員	1次志望倍率						入学者数(※5月1日現在の在籍者)					
				R1	R2	R3	R4	R5	5 年 平均	R1	R2	R3	R4	R5	5 年 平均
青森	普通科	6	240	1.47	1.37	1.55	1.50	1.25	1.43	282	280	240	240	239	256
青森西	普通科	6	240	1.17	1.01	1.04	1.05	1.23	1.10	240	241	240	241	240	240
青森東	普通科	6	240	1.37	1.36	1.09	1.28	1.17	1.25	240	240	241	241	240	240
青森北	普通科	4	160	0.90	1.08	0.79	0.81	0.75	0.87	160	160	160	158	161	160
	スポーツ科学科	1	40	0.80	1.53	0.85	1.10	0.85	1.03	40	40	28	39	40	37
	学校計	5	200	0.88	1.17	0.81	0.87	0.77	0.90	200	200	188	197	201	197
青森南	普通科	4	160	1.25	1.16	1.44	1.40	1.69	1.37	200	202	161	161	161	177
	外国語科	1	40	0.93	0.88	0.48	0.83	0.55	0.73	40	40	39	40	40	40
	学校計	5	200	1.20	1.11	1.25	1.29	1.47	1.25	240	242	200	201	201	217
青森中央	総合学科	5	200	1.12	1.21	0.95	1.18	1.10	1.11	200	199	190	198	201	198
浪岡	普通科	2	70	0.41	0.39	0.37	0.23	0.23	0.33	36	29	34	29	18	29
青森工業	機械科	1	35	1.66	1.20	1.37	1.20	1.11	1.31	35	33	35	25	35	33
	電気科	1	35	0.57	0.46	0.57	0.66	0.91	0.63	35	34	35	26	30	32
	電子科	1	35	0.77	0.69	0.89	1.03	0.54	0.78	35	35	35	35	35	35
	情報技術科	1	35	1.57	0.94	1.54	1.23	1.31	1.32	35	35	35	35	36	35
	建築科	1	35	1.40	1.43	1.74	0.77	0.97	1.26	35	35	35	34	34	35
	都市環境科	1	35	0.77	1.29	0.69	0.46	0.83	0.81	35	32	35	20	33	31
	学校計	6	210	1.09	0.96	1.13	0.89	0.95	1.00	245	239	210	175	203	214
青森商業 (※くくり募集)	商業科 情報処理科	5	200	0.95	0.97	0.88	0.74	0.95	0.89	200	200	190	165	200	191

【定時制】

学校名	学科名	R5 学級数	R5 募集人員	1次志望倍率						入学者数(※5月1日現在の在籍者)					
				R1	R2	R3	R4	R5	5 年 平均	R1	R2	R3	R4	R5	5 年 平均
北斗	普通科(午前)	1	40	0.80	0.85	0.70	1.25	1.08	0.94	40	41	40	40	40	40
	普通科(午後)	1	40	0.65	0.70	0.65	0.50	1.23	0.75	31	34	39	41	40	37
	普通科(夜間)	1	40	0.08	0.15	0.13	0.15	0.20	0.14	2	7	4	13	17	9
	学校計	3	120	0.51	0.57	0.49	0.63	0.83	0.61	73	82	83	94	97	86

西北地区の県立高等学校 基礎データ

【全日制】

学校名	学科名	R5 学級数	R5 募集人員	1次志望倍率						入学者数(※5月1日現在の在籍者)					
				R1	R2	R3	R4	R5	5 年 平均	R1	R2	R3	R4	R5	5 年 平均
五所川原 (※くくり募集)	普通・理数	5	200	0.83	0.86	0.74	0.82	0.68	0.78	192	195	168	167	154	175
木造	総合学科	4	160	1.01	1.28	0.96	0.86	1.10	1.04	144	160	149	141	163	151
鱒ヶ沢	普通科	1	40	0.63	0.25	0.23	0.25	0.30	0.33	24	10	7	9	16	13
五所川原農林	生物生産科	1	35	1.03	1.46	0.94	0.80	0.40	0.93	35	35	26	26	24	29
	森林科学科	1	35	1.23	1.09	1.06	0.43	0.34	0.83	35	35	34	15	12	26
	環境土木科	1	35	1.03	0.51	0.71	0.49	0.66	0.68	35	35	29	19	22	28
	食品科学科	1	35	1.14	1.20	0.74	0.77	1.31	1.03	35	35	31	31	35	33
	学校計	4	140	1.11	1.06	0.86	0.62	0.68	0.87	140	140	120	91	93	117
五所川原工科	普通科	2	70	/	/	1.17	1.40	1.24	1.27	/	/	70	70	68	42
	機械科	1	35	/	/	1.31	0.86	0.77	0.98	/	/	35	24	22	16
	電子機械科	1	35	/	/	1.63	1.11	0.80	1.18	/	/	35	34	33	20
	電気科	1	35	/	/	0.80	0.49	0.51	0.60	/	/	35	25	15	15
	学校計	5	175	/	/	1.22	1.05	0.91	1.06	/	/	175	153	138	93

【定時制】

学校名	学科名	R5 学級数	R5 募集人員	1次志望倍率						入学者数(※5月1日現在の在籍者)					
				R1	R2	R3	R4	R5	5 年 平均	R1	R2	R3	R4	R5	5 年 平均
五所川原	普通科	1	40	0.08	0.15	0.13	0.15	0.10	0.12	7	12	5	14	3	8

中南地区の県立高等学校 基礎データ

【全日制】

学校名	学科名	R5 学級数	R5 募集人員	1次志望倍率						入学者数(※5月1日現在の在籍者)					
				R1	R2	R3	R4	R5	5 年 平均	R1	R2	R3	R4	R5	5 年 平均
弘前	普通科	6	240	1.46	1.40	1.40	1.45	1.34	1.41	241	240	241	242	242	241
弘前中央	普通科	6	240	1.49	1.50	1.48	1.45	1.33	1.45	240	240	240	240	240	240
弘前南	普通科	5	200	0.96	0.82	0.84	0.80	0.89	0.86	240	241	240	240	200	232
黒石	普通科	3	120	△	1.03	0.87	0.83	0.74	0.87	△	119	113	110	80	84
	情報デザイン科	1	40	△	0.78	0.83	0.85	0.90	0.84	△	39	31	32	37	28
	看護科	1	40	△	1.05	1.08	1.68	0.88	1.17	△	40	40	41	37	32
	学校計	5	200	△	0.98	0.90	1.01	0.80	0.92	△	198	184	183	154	144
柏木農業	生物生産科	1	35	0.94	0.77	0.60	0.49	0.63	0.69	30	35	16	16	18	23
	環境工学科	1	35	0.94	0.69	0.46	0.31	0.26	0.53	35	25	18	12	11	20
	食品科学科	1	35	0.91	0.91	0.63	0.69	0.49	0.73	28	31	23	23	19	25
	生活科学科	1	35	0.63	0.51	0.40	0.29	0.43	0.45	29	24	18	15	16	20
	学校計	4	140	0.86	0.72	0.52	0.44	0.45	0.60	122	115	75	66	64	88
弘前工業	機械科	1	35	1.17	1.09	1.00	0.77	1.17	1.04	35	35	35	35	35	35
	電気科	1	35	1.03	0.91	0.74	0.80	0.66	0.83	35	35	35	35	29	34
	電子科	1	35	1.00	1.11	0.89	1.23	0.54	0.95	35	35	35	35	35	35
	情報技術科	1	35	1.80	1.46	1.66	1.83	1.63	1.67	35	35	35	35	35	35
	土木科	1	35	1.34	1.14	1.34	0.94	1.20	1.19	35	35	35	35	35	35
	建築科	1	35	1.97	1.37	1.80	1.03	1.60	1.55	35	35	35	35	35	35
	学校計	6	210	1.39	1.18	1.24	1.10	1.13	1.21	210	210	210	210	204	209
	弘前実業	商業科	2	80	1.29	1.28	1.40	1.40	0.99	1.27	80	80	80	80	80
情報処理科	1	40	1.50	1.38	1.20	1.53	1.33	1.39	40	40	40	40	40	40	
家庭科学科	1	40	1.83	2.60	1.58	2.00	1.05	1.81	40	40	40	40	40	40	
服飾デザイン科	1	40	1.08	0.90	0.95	1.05	0.95	0.99	40	40	40	40	40	40	
スポーツ科学科	1	40	1.50	1.33	1.50	2.10	1.65	1.62	40	40	39	40	40	40	
学校計	6	240	1.44	1.51	1.34	1.58	1.16	1.41	280	280	239	240	240	256	

【定時制】

学校名	学科名	R5 学級数	R5 募集人員	1次志望倍率						入学者数(※5月1日現在の在籍者)					
				R1	R2	R3	R4	R5	5 年 平均	R1	R2	R3	R4	R5	5 年 平均
尾上総合	総合学科(Ⅰ部)	2	80	0.61	0.61	0.66	0.60	0.54	0.61	75	61	52	58	54	60
	総合学科(Ⅱ部)			0.03	0.03	0.03	0.08	0.03	0.03						
	総合学科(Ⅲ部)	1	40	0.03	0.03	0.03	0.08	0.03	0.03	3	2	6	7	5	5
	学校計	3	120	0.51	0.57	0.49	0.63	0.37	0.39	78	63	58	65	59	65

上北地区の県立高等学校 基礎データ

【全日制】

学校名	学科名	R5 学級数	R5 募集人員	1次志望倍率						入学者数(※5月1日現在の在籍者)					
				R1	R2	R3	R4	R5	5 年 平均	R1	R2	R3	R4	R5	5 年 平均
三本木	普通科	6	240	0.98	0.93	0.90	0.89	0.94	0.93	239	229	215	208	227	224
三沢	普通科	6	240	1.07	1.03	0.96	0.86	1.05	0.99	240	239	225	194	234	226
野辺地	普通科	2	80	0.79	0.71	0.39	0.43	0.35	0.53	74	52	35	37	28	45
七戸	総合学科	3	120	0.70	0.74	0.80	0.68	0.63	0.71	98	107	103	107	89	101
百石	普通科	2	80	1.01	0.99	0.79	0.79	0.96	0.91	80	80	70	73	75	76
	食物調理科	1	40	0.85	1.58	1.03	0.88	0.88	1.04	40	41	37	31	32	36
	学校計	3	120	0.96	1.18	0.87	0.82	0.93	0.95	120	121	107	104	107	112
六ヶ所	普通科	1	40	0.71	0.46	0.50	1.00	0.73	0.64	48	40	40	40	33	40
三本木農業 恵拓	普通科	2	70			1.13	1.34	0.81	1.10			70	70	62	40
	植物科学科	1	35			0.80	1.29	0.60	0.90			29	35	24	18
	動物科学科	1	35			1.17	1.51	1.37	1.35			34	35	35	21
	環境工学科	1	35			0.94	1.23	0.94	1.04			35	35	35	21
	食品科学科	1	35			1.14	1.11	0.91	1.06			32	35	28	19
	学校計	6	210			1.05	1.30	0.91	1.09			200	210	184	119
十和田工業	機械・エネルギー科	1	35	0.97	1.37	1.37	0.71	1.03	1.09	35	30	35	33	36	34
	電気科	1	35	1.09	0.80	0.86	0.49	1.14	0.87	36	35	32	24	31	32
	電子科	1	35	1.17	1.17	1.03	0.91	1.20	1.10	35	35	35	28	35	34
	建築科	1	35	1.29	1.17	0.89	0.49	1.09	0.98	35	36	28	23	29	30
	学校計	4	140	1.18	1.13	1.04	0.65	1.11	1.03	176	136	130	108	131	136
三沢商業 (※くり募集)	商業科	3	120	1.33	1.05	0.84	0.95	0.82	1.00	120	118	103	120	108	114
	情報処理科														

【定時制】

学校名	学科名	R5 学級数	R5 募集人員	1次志望倍率						入学者数(※5月1日現在の在籍者)					
				R1	R2	R3	R4	R5	5 年 平均	R1	R2	R3	R4	R5	5 年 平均
三沢	普通科	1	40	0.30	0.28	0.38	0.33	0.28	0.31	15	25	22	17	21	20

下北地区の県立高等学校 基礎データ

【全日制】

学校名	学科名	R5 学級数	R5 募集人員	1次志望倍率						入学者数(※5月1日現在の在籍者)					
				R1	R2	R3	R4	R5	5 年 平均	R1	R2	R3	R4	R5	5 年 平均
田名部	普通科	5	200	1.00	0.96	1.16	0.97	0.88	0.99	195	191	200	184	166	187
大湊	総合学科	4	160	0.85	0.84	0.86	1.02	0.76	0.86	176	137	152	158	117	148
大間	普通科	2	70	0.60	0.49	0.57	0.56	0.76	0.59	41	37	40	39	51	42
むつ工業	機械科	1	35	1.29	1.20	0.69	1.06	0.89	1.02	34	35	24	35	32	32
	電気科	1	35	0.69	1.20	0.89	1.14	0.86	0.95	35	35	30	29	34	33
	設備・エネルギー科	1	35	0.89	0.83	0.86	0.60	0.43	0.72	35	35	31	35	23	32
	学校計	3	105	1.04	1.08	0.81	0.93	0.72	0.92	139	105	85	99	89	103

【定時制】

学校名	学科名	R5 学級数	R5 募集人員	1次志望倍率						入学者数(※5月1日現在の在籍者)					
				R1	R2	R3	R4	R5	5 年 平均	R1	R2	R3	R4	R5	5 年 平均
田名部	普通科	1	40	0.28	0.33	0.13	0.25	0.45	0.29	21	19	11	14	22	17

三八地区の県立高等学校 基礎データ

【全日制】

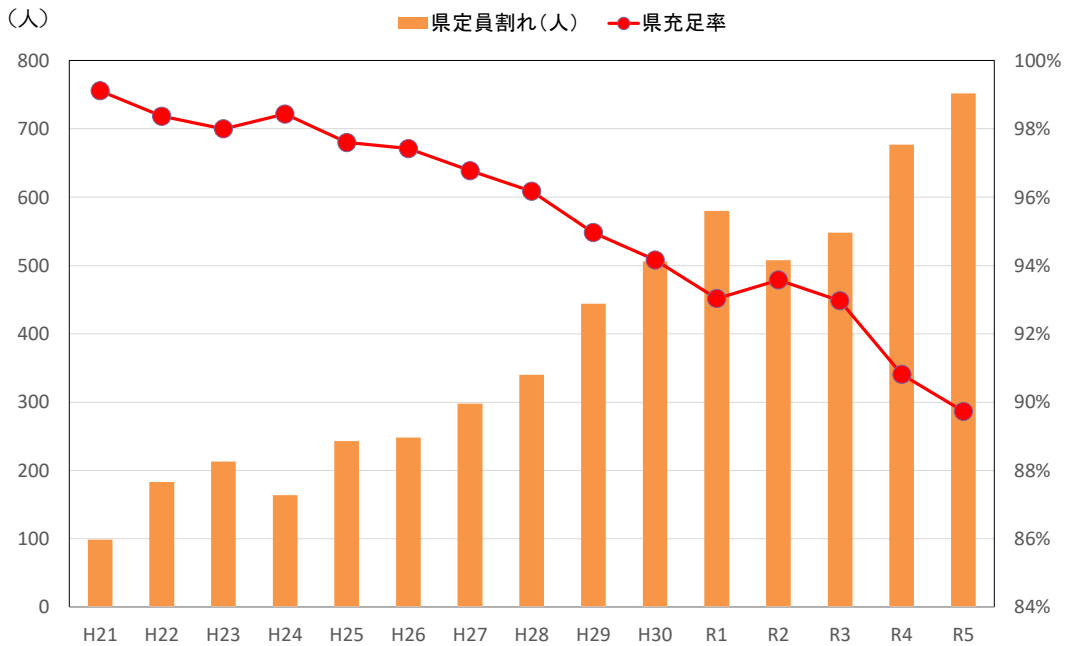
学校名	学科名	R5 学級数	R5 募集人員	1次志望倍率						入学者数(※5月1日現在の在籍者)					
				R1	R2	R3	R4	R5	5 年 平均	R1	R2	R3	R4	R5	5 年 平均
八戸	普通科	6	240	1.30	1.18	1.09	1.25	1.16	1.20	244	240	239	242	240	241
八戸東	普通科	5	200	1.28	1.18	1.12	1.24	1.32	1.22	200	201	202	201	202	201
	表現科	1	30	1.20	1.37	0.67	0.83	0.90	0.99	30	30	30	30	29	30
	学校計	6	230	1.27	1.20	1.06	1.18	1.26	1.19	230	231	232	231	231	231
八戸北	普通科	6	240	1.14	1.23	0.96	1.08	0.93	1.07	240	240	240	240	240	240
八戸西	普通科	5	200	1.60	1.22	1.29	1.25	1.24	1.31	160	200	200	200	200	192
	スポーツ科学科	1	40	1.43	0.93	1.20	1.40	1.28	1.25	40	40	38	40	40	40
	学校計	6	240	1.57	1.17	1.27	1.27	1.24	1.29	200	240	238	240	240	232
三戸	普通科	1	40	0.66	0.43	0.68	0.48	0.65	0.57	57	33	32	26	32	36
名久井農業	生物生産科	1	35	0.80	0.74	0.83	0.94	0.77	0.82	35	32	30	30	32	32
	環境システム科	1	35	0.77	1.14	0.46	0.97	0.34	0.74	35	35	23	31	14	28
	学校計	2	70	0.89	0.94	0.64	0.96	0.56	0.81	104	67	53	61	46	66
八戸水産	海洋生産科	1	35	1.17	0.91	1.23	0.86	0.57	0.95	35	28	34	30	16	29
	水産食品科	1	35	0.74	1.09	0.43	0.43	0.37	0.61	35	34	13	16	10	22
	水産工学科	1	35	1.09	0.77	0.49	0.54	0.20	0.62	35	35	23	17	9	24
	学校計	3	105	1.00	0.92	0.71	0.61	0.38	0.73	105	97	70	63	35	74
八戸工業	機械科	1	35	1.57	1.94	1.20	1.46	1.23	1.48	35	35	35	35	33	35
	電気科	1	35	0.66	0.69	0.57	0.69	0.66	0.65	35	35	35	35	35	35
	電子科	1	35	0.89	0.89	2.06	2.46	1.20	1.50	35	35	35	35	35	35
	土木科	1	35	1.35	0.45	0.94	0.63	0.63	0.78			35	35	29	20
	建築科	1	35	2.20	1.87	1.34	1.40	1.20	1.47			35	35	34	21
	材料技術科	1	35	0.91	0.97	0.74	1.43	1.26	1.06	35	35	35	35	30	34
	学校計	6	210	1.32	1.17	1.14	1.34	1.03	1.20	245	245	210	210	196	221
	八戸商業	商業科	2	80	1.14	0.89	1.11	0.78	0.69	0.92	80	75	80	61	59
	情報処理科	1	40	1.68	1.13	1.13	1.18	0.88	1.20	40	39	37	39	39	39
	学校計	3	120	1.32	0.97	1.12	0.91	0.75	1.01	120	114	117	100	98	110

【定時制】

学校名	学科名	R5 学級数	R5 募集人員	1次志望倍率						入学者数(※5月1日現在の在籍者)					
				R1	R2	R3	R4	R5	5 年 平均	R1	R2	R3	R4	R5	5 年 平均
八戸中央	普通科(午前)	1	40	0.48	0.85	1.23	1.08	1.03	0.93	38	40	40	40	33	38
	普通科(午後)	1	40	0.38	0.55	0.75	0.40	1.00	0.62	22	31	41	40	40	35
	普通科(夜間)	1	40	0.03	0.10	0.05	0.10	0.05	0.07	3	4	6	3	2	4
	学校計	3	120	0.29	0.50	0.68	0.53	0.69	0.54	63	75	87	83	75	77

※各地区の基礎データにおける「入学者(※5月1日現在の在籍者)」には、原級留置を含む。

4 県立高等学校（全日制）の募集定員と1年在籍生徒数との乖離の状況



※充足率：1年在籍生徒数/募集人員。 1年在籍生徒数には原級留置を含む

(県教育庁高等学校教育改革推進室調べ)

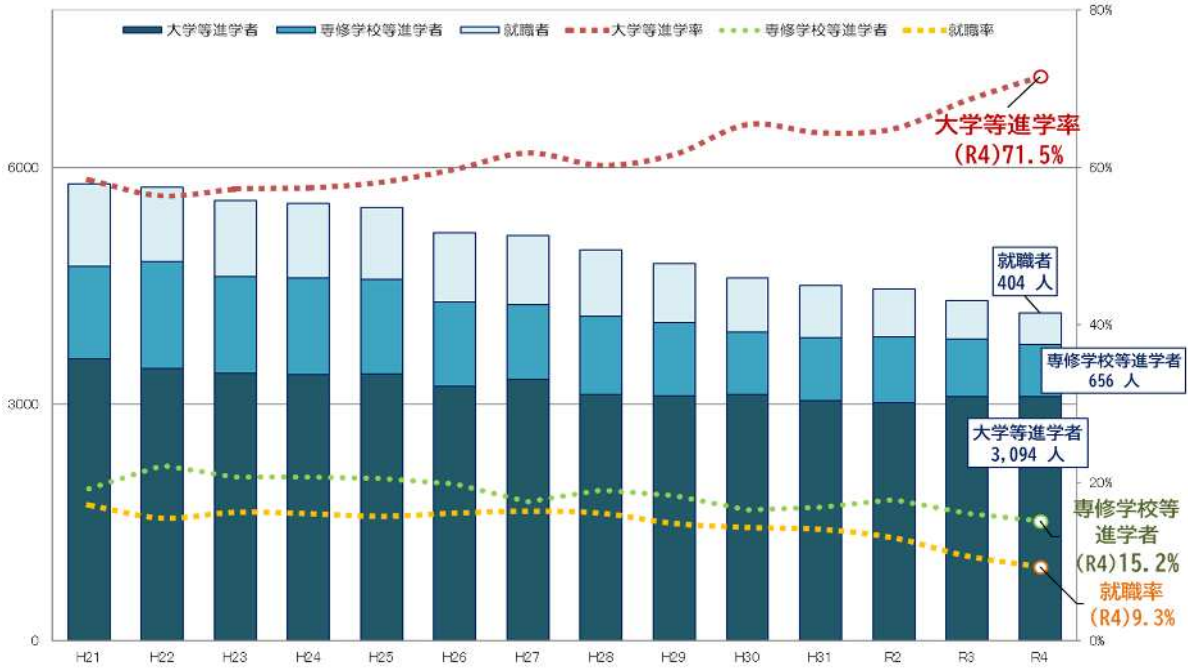
5 県立高等学校（全日制）卒業後の進路状況

(1) 県全体



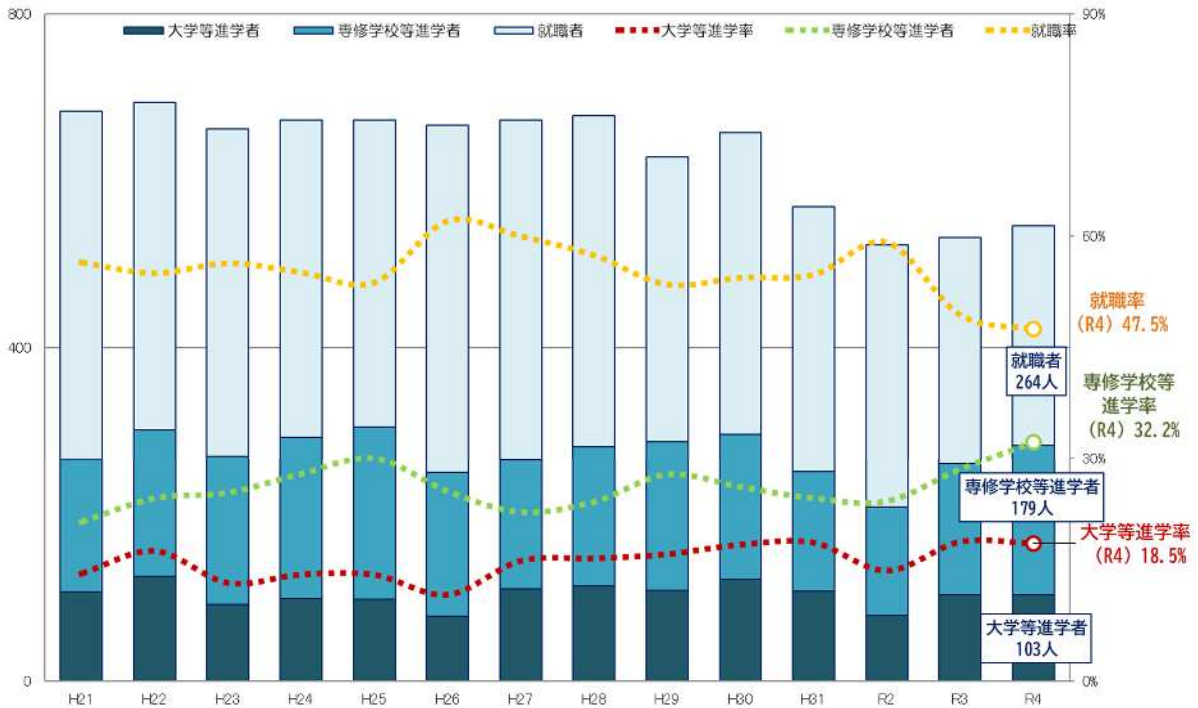
(2) 普通科等

県立高校卒業者の進路状況(普通科等)

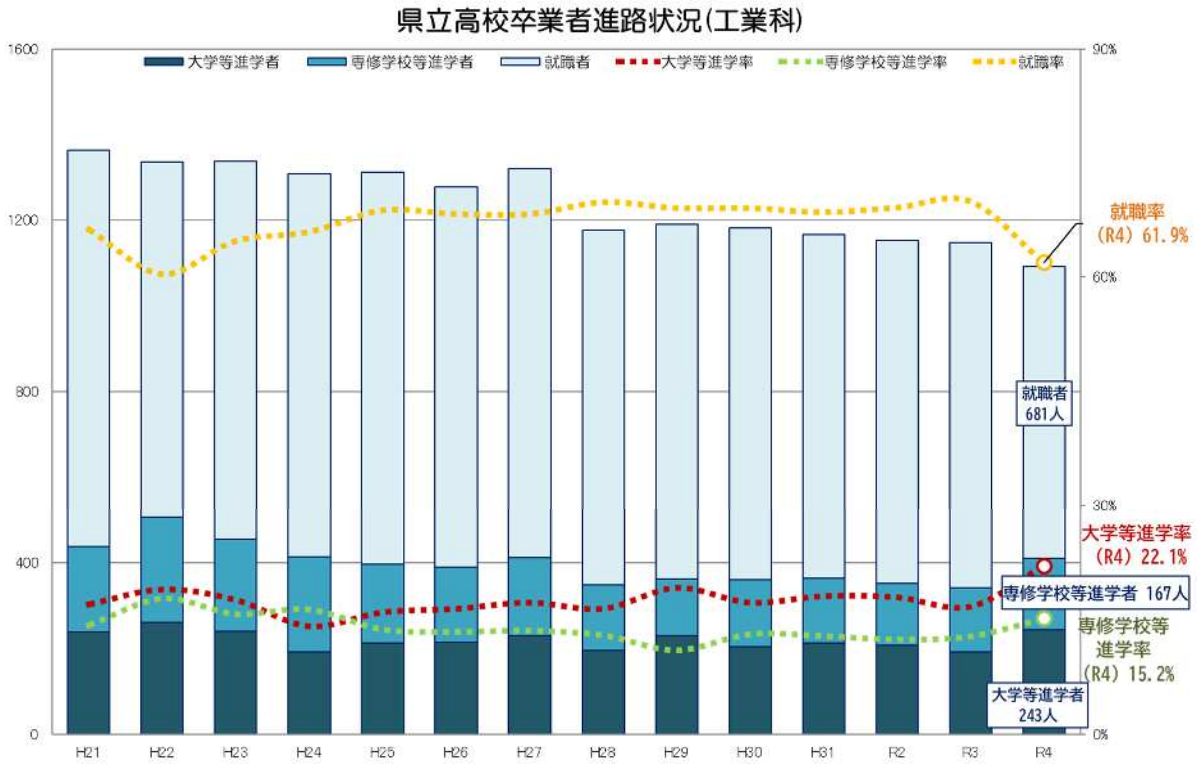


(3) 農業科

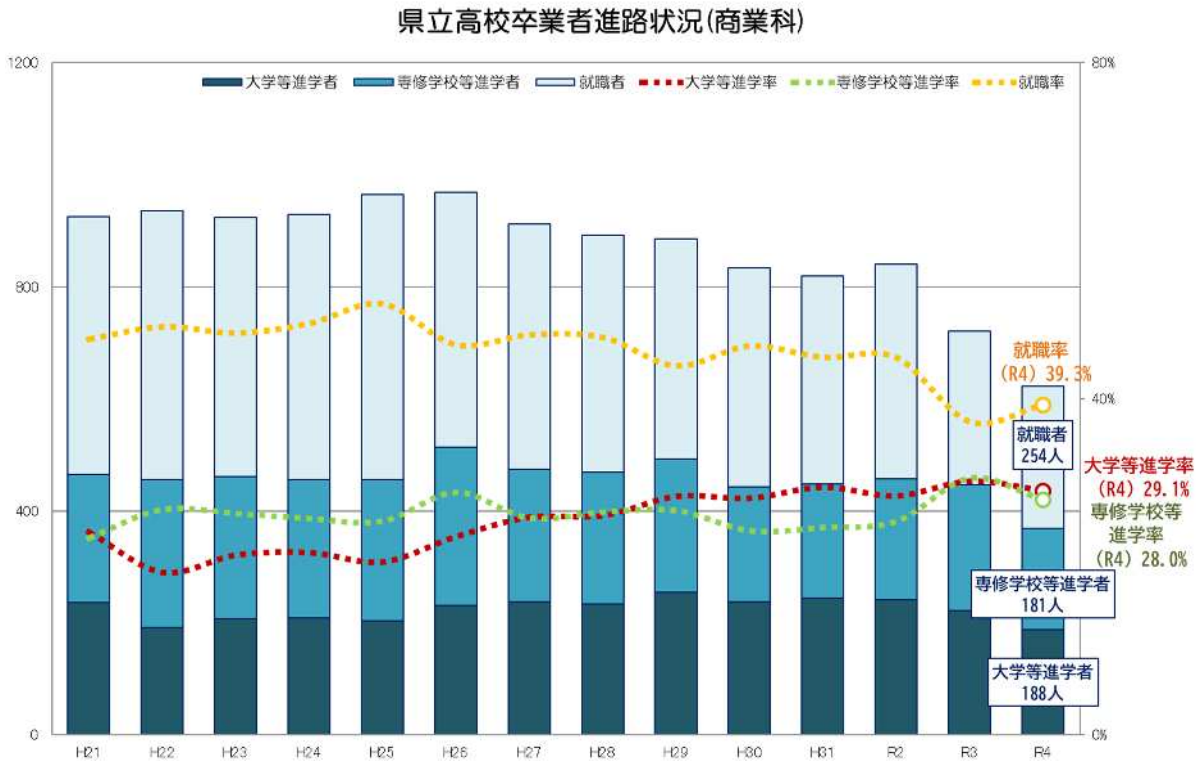
県立高校卒業者進路状況(農業科)



(4) 工業科

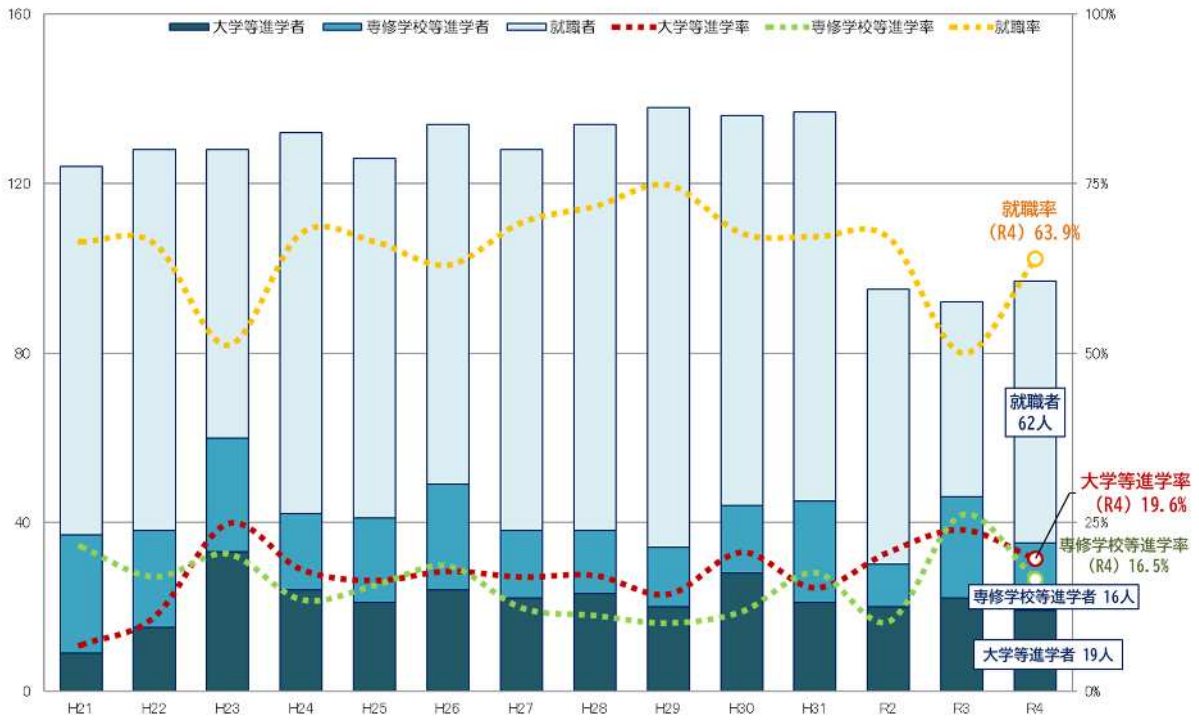


(5) 商業科



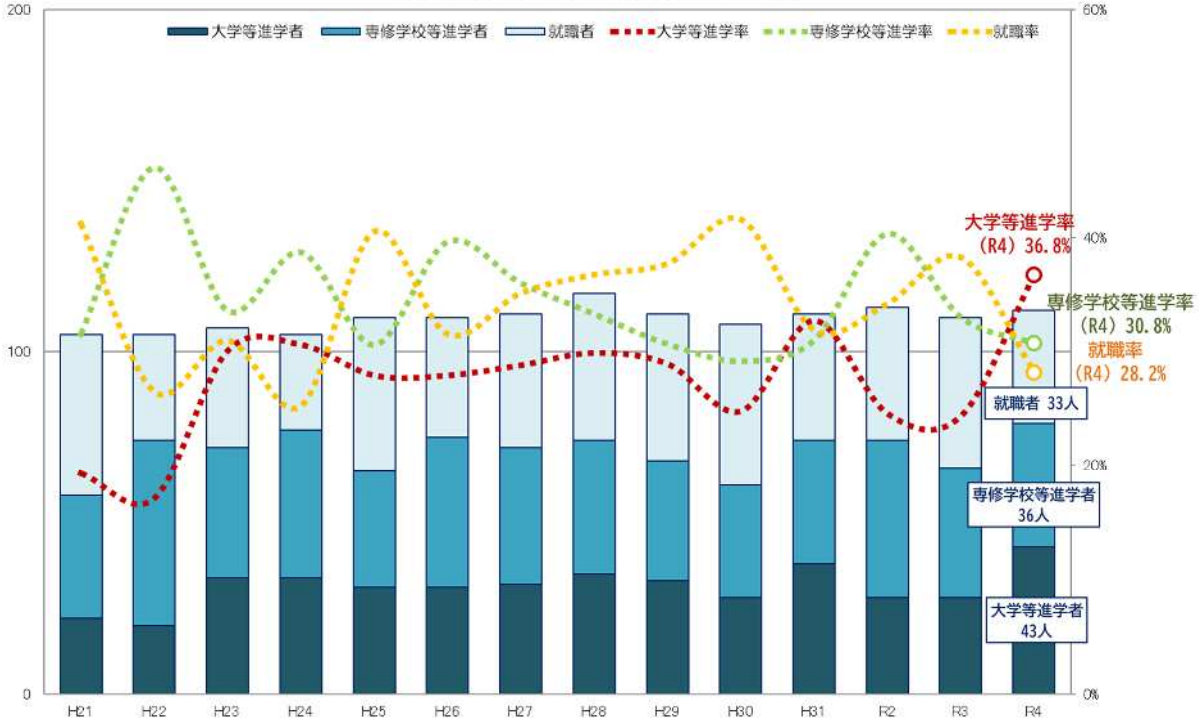
(6)水産科

県立高校卒業生進路状況(水産科)

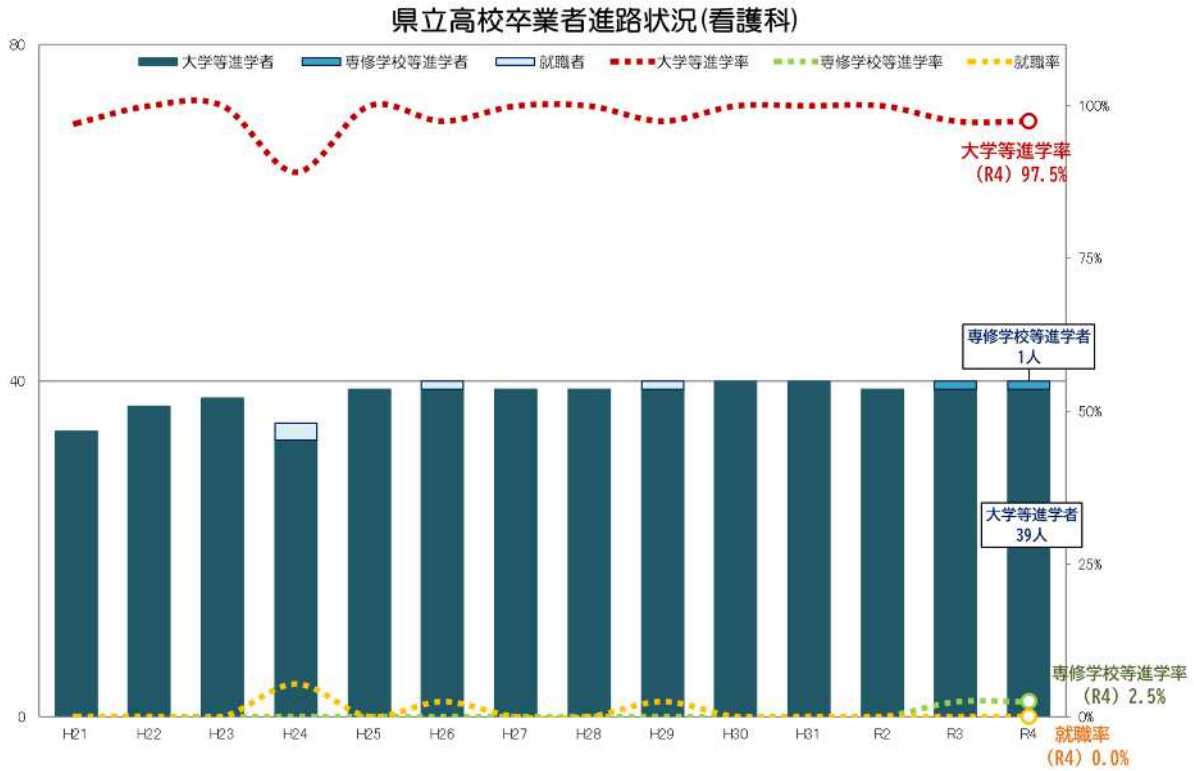


(7)家庭科

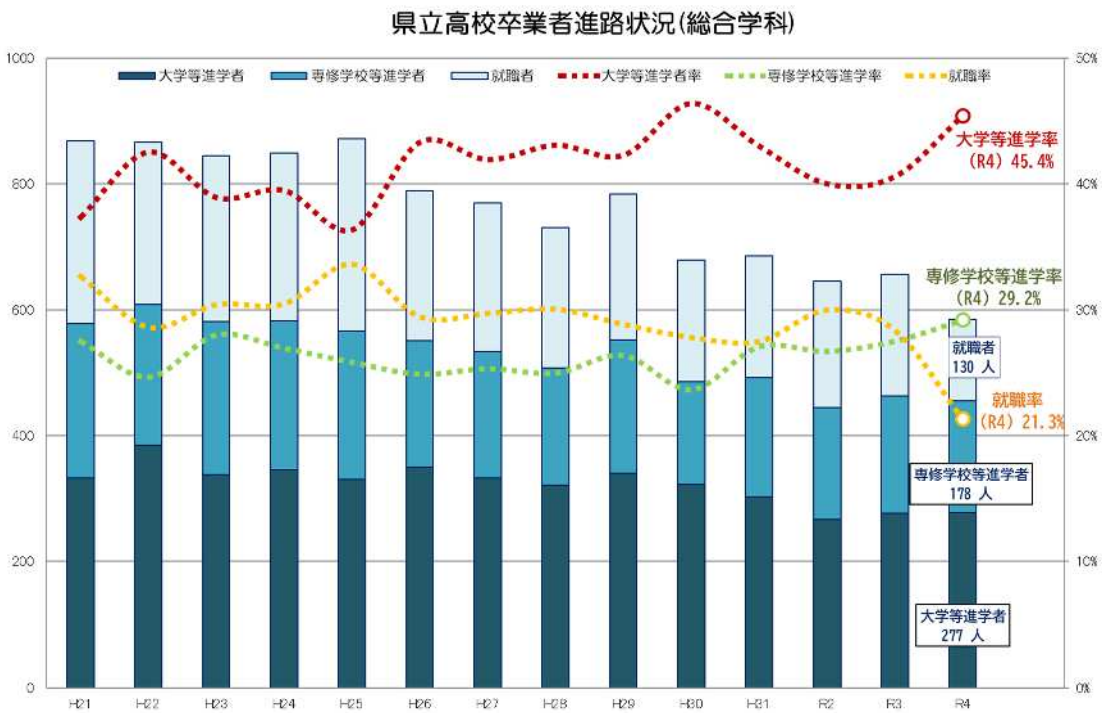
県立高校卒業生進路状況(家庭科)



(8) 看護科



(9) 総合学科



6 学びを支える制度等

(1) 就学支援金制度
県立高等学校に通う生徒に対して、教育に係る経済的負担の軽減を図り、教育の実質的な機会均等に寄与することを目的に、授業料等に充てるための高等学校等就学支援金を支給するもの。 <ul style="list-style-type: none">・全日制：月額 9,900 円（年額 118,800 円）・定時制：月額 2,700 円（年額 32,400 円）・通信制：1 単位あたり 310 円（※通信制は、履修単位数に応じた支給額）
(2) 授業料等免除制度
県立高等学校に在学する生徒の授業料等を免除することで、教育に係る経済的負担の軽減を図り、教育の実質的な機会均等に寄与するもの。
(3) 学び直し支援金制度
高等学校等を退学し、再び県立高等学校に入学し学び直す生徒に対して、教育に係る経済的負担の軽減を図り、教育の実質的な機会均等に寄与することを目的に、授業料等に充てるための学び直し支援金を支給するもの。 <ul style="list-style-type: none">・支給額：(1)と同額
(4) 超過者支援金制度
就学支援金又は学び直し支援金の受給資格を有する者のうち、休学、留学、病気療養その他やむを得ない事由により支給期間等を超過する生徒に対して、教育に係る経済的負担の軽減を図り、教育の実質的な機会均等に寄与することを目的に、授業料等に充てるための標準修業年限超過者等就学支援金を支給するもの。 <ul style="list-style-type: none">・支給額：(1)と同額
(5) 専攻科支援金制度
県立高等学校専攻科に在学する生徒に対し、教育に係る経済的負担の軽減を図り、教育の実質的な機会均等に寄与することを目的に、授業料に充てるための専攻科支援金を支給するもの。 <ul style="list-style-type: none">・市町村民税の課税標準額に100分の6を乗じた額から市町村民税の調整控除額を差し引いた額が100円未満の世帯の生徒 ：月額9,900円（年額118,800円）・市町村民税の課税標準額に100分の6を乗じた額から市町村民税の調整控除額が100円以上51,300円未満の世帯の生徒 ：月額4,950円（年額59,400円）
(6) 青森県高等学校定時制課程及び通信制課程修学奨励金
働きながら高等学校の定時制の課程及び通信制の課程に在学する生徒に対し、その修学を促進するという目的で、無利息で貸与するもの。

- 貸与月額の上限は18,000円
- 卒業までの4年以内の期間（貸与月額が14,000円るとき、貸与総額は、3年間の場合は504,000円、4年間の場合は672,000円）貸与
- 卒業した場合には、貸与を受けた全額について返還を免除

(7) 青森県国公立高校生等奨学のための給付金

全ての意志ある高校生等が安心して教育を受けられるよう、授業料以外の教育費負担を軽減するため、道府県民税所得割及び市町村民税所得割非課税世帯で国公立高校生等がいる世帯の保護者等に対し、教科書費や教材費などの授業料以外の教育に必要な経費について給付金を給付するもの。

- ① 生活保護（生業扶助）受給世帯：年額 32,300 円
- ② 道府県民税所得割及び市町村民税所得割非課税世帯（生活保護（生業扶助）受給世帯を除く。）
 - ア 通信制以外に在学している給付金の対象となる高校生等
 - (ア) 当該高校生等以外に被扶養者である通信制に在学している高校生等がいる世帯：年額 143,700 円
 - (イ) 当該高校生等以外に被扶養者である通信制に在学している高校生等がいない世帯
 - a 当該高校生等以外に被扶養者である 15 歳以上 23 歳未満の兄弟姉妹がいる世帯：年額 143,700 円
 - b 当該高校生等以外の 15 歳以上 23 歳未満の兄弟姉妹がいない世帯
 - (a) 被扶養者である給付金の対象となる高校生等の兄又は姉がいる世帯：年額 143,700 円
 - (b) 被扶養者である給付金の対象となる高校生等の兄及び姉がいない世帯：年額 114,100 円
 - イ 通信制に在学している給付金の対象となる高校生等：年額 50,500円

(8) 高等学校奨学金

公益財団法人青森県育英奨学会により、本県並びに国家社会の発展に貢献しようする人材の育成に寄与することを目的として、青森県人の子弟のうち、学業、人物が優れているにもかかわらず経済的理由により修学が困難な生徒及び学生に対して奨学金を貸与するもの。

- 貸与月額：ア 18,000 円、イ 23,000 円、ウ 30,000 円、エ 35,000 円

また、生徒一人一人が将来に希望を持ち、幅広い選択肢の中から自分に合った教育を選択し、安心して勉学に打ち込めるよう、高校奨学金において支援を必要とする生徒の皆さんの通学費等の一部返還を免除することとしている。

- 免除額：奨学金の貸与月額又は通学費等の1月当たりの実費相当額（千円未満の端数は切捨て）のいずれか低い方の額から通学費では1月当たり1万円、下宿費（寮含む）では1月当たり1万2千円を差し引いた額